

2009年度

# 事業報告書

学校法人 桜美林学園

2010年5月22日

# 目次

## ごあいさつ

### I. 法人の概要

1. 建学の精神、目的
2. 学校法人の沿革
3. 設置する学校、学群、学部、学科等
4. 当該学校、学群・学部・学科等の入学定員、学生数の状況
5. 役員の状況
6. 評議員の状況
7. 教職員の状況

### II. 事業の概要

1. 学園全体の事業
2. 大学・大学院の事業
3. 中学校・高等学校の事業
4. 幼稚園の事業
5. 施設・設備の状況

### III. 財務の概要

1. 当年度決算の状況
  - (1) 消費収支計算の状況
  - (2) 資金収支計算の状況
  - (3) 資産、負債・基本金・消費収支差額の状況
  - (4) 財務比率の推移
2. 資金調達及び借入金の状況
3. 監査の状況

(添付資料)

- (1) 資料(1-1) 貸借対照表(2005年度末～2009年度末)
- (2) 〃(1-2) 貸借対照表(指数表示)(2005年度末～2009年度末)
- (3) 〃(2) 消費収支の推移(2005年度～2009年度)
- (4) 〃(3) 資金収支の推移(2005年度～2009年度)
- (5) 〃(4) 活動区分別資金収支の推移(2005年度～2009年度)
- (6) 〃(5) 5ヵ年連続財務比率表(2005年度～2009年度)

ごあいさつ

## 2009年度の事業報告にあたって

理事長 佐藤 東洋士

本学園は、キリスト教精神に基づく教育を実践し「教養豊かな国際人の育成を目指す」という建学の精神に基づいて2009年度の事業活動を展開することができました。学園の決算内容をより深くご理解いただくことを目指して、本学園の財務内容を公開するにあたって本学園の事業内容をあわせて報告させていただきます。

学園は2005年度にミッション・ビジョン・バリューを公表し事業を進めてきましたが、2009年度には将来の5年間の「中期目標」を取り纏め、2010年度から具体的に実施して行くことを決めました。大学においては、本学が進めてきました学群制による教育体制が2010年度に完成年度を迎え、これまでの改編作業の最終段階となります。これらの意味で2009年度は学園事業を将来的に発展させて行く上で節目の年度となりました。

2009年度のより細かな事業内容は具体的に後述する通りですが、大学では、教学体制改編効果により教学面で本学が目指している教育の成果が具体的に現われて来ていることを確信しています。また、財政面でも学生数の増加により将来的に安定した財政基盤の構築に繋がる2009年度の事業内容、決算結果であったと考えています。中学・高等学校においては、近年キリスト教教育の充実、学力向上と教育内容の充実を目指した事業運営を行っていますが、2009年度の事業もこの基本方針に従い遂行しました。幼稚園においてもキリスト教保育の実践を継続することができました。また、学園施設の面では、学生宿舎の整備に努めていることが2009年度の活動のトピックスといえます。

近年、少子高齢化という社会の構造的な変化に伴い経営の安定化についても強く意識して学園運営に携わることがより必要になったと考えていますが、本学園は、教学体制の改編作業、質の高い教育への取り組みを通じて、学生数の増加、志願者確保の実現を図っています。また、国際的な教育活動、新たな教育分野への取組を積極的に進めて行くことにより本学園でなければ実現できない特色ある教育の実践に向けて質の向上、環境整備に努めています。

2010年度から新たな「中期目標」の実現に向けて、国際化の施策をはじめ種々の施策を実践してまいります。

2010年5月22日

## I. 法人の概要

### 1. 建学の精神、目的

桜美林学園は「キリスト教精神に基づく国際人の育成」を建学の理念とし、単に知識だけではなく、在学中に幅広い教養や判断力を身につけさせ、どのような場面においても他者を理解し、協調性をもって物事に取り組める人材を育成することを教育の理想としています。その教育の理想を実現するために、リベラルアーツ教育、国際教育を掲げて、未来に向けての教育活動を展開しています。教育とは、それぞれの人格を尊重し、その個性を伸ばしながら、より優れた人間へと創造する活動であり、学園の創立者・清水安三は「がくじしじん学而事人」、また「せかた爲ん方つくれどものぞみ希望を失はず」の精神を説きました。桜美林学園のミッションは、まさしくこの「学びて人に仕える」の精神をより完成されたものへと作り上げることであり、他者の痛みを理解できる人材、国際舞台で活躍できる優れた人材を世に送り出すことにあります。学園のモットーである「艱難を経て栄光に至る（*per patientiam ad gloriam*）」の精神を実践し、希望を持ち続けることのできる人材、自らの未来や新しい時代を担う人材を育成するという学園としての教育目標を掲げて、21世紀にふさわしい学びの場としての学園経営に努めています。

### 2. 学校法人の沿革

学校法人桜美林学園は、創立者・清水安三が、1921年に中国北京市朝陽門外において、貧困に苦しむ子どもたちの自立を願って設立した、「崇貞学園」が前身です。1946年5月29日に東京都町田市に設立された本学園は、崇貞学園の（イ）国籍を問わず国際的人材として通用する学生の教育、（ロ）キリスト教を基盤とする教養人の育成、（ハ）キリスト教精神にもとづいて社会に貢献できる者の育成、という建学の理念をそのまま継承しており、寄附行為には「基督教主義により男女青少年に知識技能を授け、人格教育を行い、国家及び世界のため貢献する有益な人材を育成することを以って目的とする」という本学園の理念が記されています。現在本学園は、桜美林大学（大学院、日本言語文化学院、孔子学院を含む）、桜美林高等学校、桜美林中学校、桜美林幼稚園を設置しています。

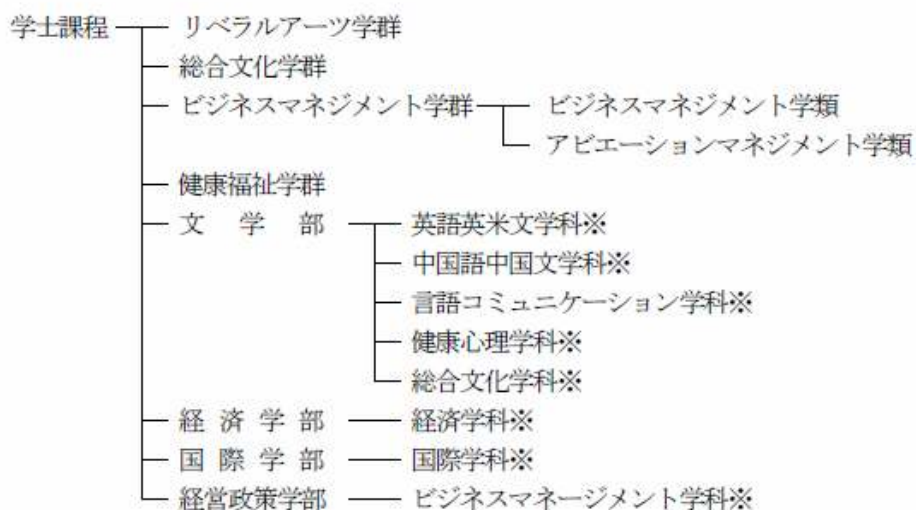
### (簡易年表)

1921年5月	中国北京市朝陽門外に崇貞学園を創立。
1946年5月	財団法人桜美林学園（旧制高等女学校、英文専攻科）を創立。
1947年4月	桜美林中学校を開校。
1948年4月	桜美林高等学校を開校。これに伴い旧制高等女学校は廃止。
1950年4月	桜美林短期大学（英語英文科・実務英語課程）を開学。これに伴い英文専攻科は廃止。
1951年2月	組織変更により、学校法人桜美林学園認可。
1955年4月	短期大学に家政科を増設。
1966年4月	桜美林大学（文学部英語英米文学科、中国語中国文学科）を開学。
1968年4月	大学に経済学部経済学科を開設。 桜美林幼稚園を開園。
1972年4月	大学経済学部にも商学科を増設。
1989年4月	大学に国際学部国際学科を開設。 短期大学家政科を生活文化学科に名称変更。
1993年4月	大学院国際学研究科修士課程（国際関係専攻、環太平洋地域文化専攻）を開設。
1995年4月	大学院国際学研究科博士後期課程（国際関係専攻、環太平洋地域文化専攻）を設置。
1997年4月	大学に経営政策学部ビジネスマネジメント学科を開設。これに伴い経済学部商学科は募集停止。
2000年4月	大学文学部に言語コミュニケーション学科、健康心理学科、総合文化学科を増設。 短期大学生生活文化学科を募集停止。
2001年4月	大学院国際学研究科に大学アドミニストレーション専攻修士課程、言語教育専攻修士課程を増設。
2002年4月	大学院国際学研究科に人間科学専攻修士課程、老年学専攻修士課程を増設。 短期大学を桜美林大学短期大学部に名称変更。
2003年4月	プラネット淵野辺キャンパス（PFC）を開設。
2004年4月	大学院国際学研究科に老年学専攻博士後期課程、大学アドミニストレーション専攻修士課程（通信教育課程）を増設。 大学院国際学研究科国際関係専攻博士前期課程と環太平洋地域文化専攻博士前期課程を国際学専攻博士前期課程に統合。

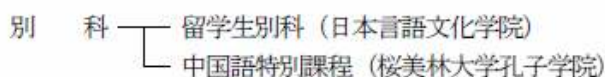
2005年4月	<p>大学に総合文化学群を開設。これに伴い文学部総合文化学科は募集停止。</p> <p>短期大学部を募集停止。</p>
2005年9月	<p>大学に日本語文化学院（留学生別科）を開設。</p>
2006年4月	<p>大学に健康福祉学群、ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類を開設。これに伴い文学部健康心理学科、経営政策学部ビジネスマネジメント学科は募集停止。</p> <p>大学に桜美林大学孔子学院（中国語特別課程）を開設。</p>
2007年4月	<p>大学にリベラルアーツ学群を開設。これに伴い文学部英語英米文学科・中国語中国文学科・言語コミュニケーション学科、経済学部経済学科、国際学部国際学科は募集停止。</p> <p>短期大学部を廃止。</p>
2008年4月	<p>四谷キャンパスを開設。</p> <p>大学ビジネスマネジメント学群にアビエーションマネジメント学類を増設。</p> <p>大学院に老年学研究科老年学専攻博士前期課程・博士後期課程、大学アドミニストレーション研究科大学アドミニストレーション専攻修士課程並びに同通信教育課程を開設。これに伴い国際学研究科老年学専攻博士前期課程・博士後期課程、大学アドミニストレーション専攻修士課程並びに同通信教育課程は募集停止。</p>
2009年4月	<p>大学院国際学研究科に国際協力専攻修士課程を増設。</p> <p>大学院国際学研究科国際関係専攻博士後期課程を人文社会科学専攻博士後期課程に名称変更。</p> <p>大学院に経営学研究科経営学専攻修士課程、心理学研究科臨床心理学専攻修士課程・健康心理学専攻修士課程、言語教育研究科日本語教育専攻修士課程・英語教育専攻修士課程を開設。</p> <p>大学院国際学研究科人間科学専攻修士課程、言語教育専攻修士課程、環太平洋地域文化博士後期課程は募集停止。</p>

### 3. 設置する学校、学群、学部、学科等

#### (1) 桜美林大学



※学生募集停止



(2) 桜美林高等学校 —— 全日制課程

(3) 桜美林中学校

(4) 桜美林幼稚園

#### 4. 当該学校・学群・学部・学科等の入学定員、学生数の状況

(2009年5月1日現在)

設置する学校、学部、学科等名		入学定員	収容定員	現員数
桜 美 林 大 学	国際学研究科 国際学専攻 博士前期課程	10	60	100
	国際学研究科 国際協力専攻 修士課程	10	10	4
	国際学研究科 国際人文社会科学専攻 博士後期課程	10	10	4
	国際学研究科 国際関係専攻 博士後期課程	—	6	11
	国際学研究科 環太平洋地域文化専攻 博士後期課程	—	6	20
	国際学研究科 老年学専攻 博士前期課程	—	—	7
	国際学研究科 老年学専攻 博士後期課程	—	3	8
	国際学研究科 大学アドミニストレーション専攻 修士課程	—	—	10
	〃 (通信教育課程)	—	—	22
	国際学研究科 言語教育専攻 修士課程	—	40	39
	国際学研究科 人間科学専攻 修士課程	—	30	26
	老年学研究科 老年学専攻 博士前期課程	20	40	29
	老年学研究科 老年学専攻 博士後期課程	3	6	7
	大学アドミニストレーション研究科 大学アドミニストレーション専攻 修士課程	20	40	13
	〃 (通信教育課程)	40	80	75
	経営学研究科 経営学専攻 修士課程	30	30	13
	言語教育研究科 日本語教育専攻 修士課程	30	30	11
	言語教育研究科 英語教育専攻 修士課程	10	10	1
	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	13	13	12
	心理学研究科 健康心理学専攻 修士課程	17	17	7
	大 学 院 計	213	431	419
	リベラルアーツ学群	950	2,850	3,328
	総合文化学群	250	950	1,096
	ビジネスマネジメント学群 ビジネスマネジメント学類	320	1,440	1,660
	ビジネスマネジメント学群 アビエーションマネジメント学類	80	160	175
	健康福祉学群	200	800	935
文学部 英語英米文学科	—	225	227	
文学部 中国語中国文学科	—	105	74	
文学部 言語コミュニケーション学科	—	190	203	
文学部 健康心理学科	—	—	15	
文学部 総合文化学科	—	—	7	
経済学部 経済学科	—	255	275	
国際学部 国際学科	—	235	292	
経営政策学部 ビジネスマネジメント学科	—	—	52	
学 士 課 程 計	1,800	7,210	8,339	
留学生別科 (日本語文化学院)	120	120	111	
中国語特別課程 (桜美林大学孔子学院)	40	40	15	
別 科 計	160	160	126	
大 学 合 計	2,173	7,801	8,884	
桜美林高等学校	320	960	1,122	
桜美林中学校	160	480	503	
桜美林幼稚園	—	160	156	
合 計	2,653	9,401	10,665	



## 5. 役員の状況

2010年3月31現在

### (1) 理事 (任期3年)

○印は基督者 (12人)

号	選任区分	定数	氏名		備考
1号	学校の長	4人以内 (3人)	佐藤東洋士	○	理事長・桜美林大学長
			本田 栄一	○	桜美林中学校・高等学校長
			羽根田 実	○	桜美林幼稚園長
2号	評議員	1人	小崎 公平	○	
3号	学識経験者	10人以上 (11人)	小川 欣亨		
			川合 貞義	○	
			土橋 信男	○	
			西村 義臣	○	
			三田 幸子	○	
			柳原鐵太郎	○	桜美林学園長
			向井 孝次		
			岩田美恵子	○	
			小磯 明	○	
			ロバート・オアー	○	
			田村 恵美		
	計	15人	15人	12	

### (2) 監事 (任期3年)

2010年3月31現在

		定数	氏名	備考
		2人	小椋 郊一	
			名取 襄一	
	計	2人	2人	

## 6. 評議員の状況

2010年3月31現在

(任期3年)

○印は基督者(過半数以上)

号	選任区分	定数	氏名		備考
1号	基督者又は基督教に理解ある教職員	12人以内 (12人)	佐藤東洋士	○	理事長・桜美林大学長
			本田 栄一	○	桜美林中学校・高等学校長
			羽根田 実	○	桜美林幼稚園長
			茂木 俊彦		桜美林大学健康福祉学群長
			清水 賢一	○	桜美林高等学校教諭
			寺井 泰明		桜美林大学副学長
			藤崎 堅信	○	桜美林高等学校教頭
			宮下 幸一		桜美林大学副学長
			小池 一夫		桜美林大学大学院部長
			大道 卓	○	桜美林大学リベラルアーツ学群長
			伊藤 孝久	○	桜美林中学校・高等学校事務室長
			ブルース・バートン	○	桜美林大学副学長
2号	卒業生	6人 (6人)	矢口 孝明		
			岩井 清治	○	桜美林大学教授・キャリア開発センター長
			三宅 洋		
			大越 孝	○	桜美林大学副学長
			金田 準		
			出口 告	○	
3号	援助者	13~18人 (13人)	柳原鐵太郎	○	桜美林学園長
			柴 適	○	
			伊藤 忠彦	○	
			岩田美恵子	○	
			田中 洋子		
			時田 宝文		
			小野 俊夫		
			小磯 明	○	
			田中 逸穂		
			相澤 潤子		
			菅井 祐子	○	
			田村 恵美		
小崎 公平	○				
		31~36人	31人	18	

## 7. 教職員の状況

(2009年5月1日現在)

区 分			2009年度 (A)	2008年度 (B)	増減 (A)－(B)
教 員	大 学	本 務	285	270	15
		兼 務	533	510	23
		計	818	780	38
	高等学校	本 務	47	49	▲2
		兼 務	41	41	±0
		計	88	90	▲2
	中 学 校	本 務	27	26	1
		兼 務	13	15	▲2
		計	40	41	▲1
	幼 稚 園	本 務	9	8	1
		兼 務	5	6	▲1
		計	14	14	±0
	教 員 計	本 務	368	353	15
		兼 務	592	572	20
		計	960	925	35
職 員	本 務	158	145	13	
	兼 務	136	134	2	
	計	294	279	15	
教職員合計	本 務	526	498	28	
	兼 務	728	706	22	
	計	1,254	1,204	50	

## II. 事業の概要

当年度の本学園、及び各設置校における事業の概要、ならびにその進捗状況は次の通りです。

### 1. 学園全体の事業

#### (1) 学園の将来へ向けての指針の策定

本学園は、2004年にミッション・ビジョン・バリューを取り纏め、

学園ステートメントとして学園内外に公表し、学園活動を遂行してきました。2007年度から、改めて建学の精神やキリスト教教育のあり方を問い直し本学園のミッションを再確認するとともに、新たなビジョンの策定に向けて理事研修会を実施し、策定の具体的作業を行ってきましたが、2009年度に、「桜美林学園中期目標」として、2010年度から2014年度までの期間の目標を12のコーナーストーンという形で取り纏め学園内外に公表致しました。

## (2) 職員研修の継続実施

教員については各設置校の事業においてご報告するとおりFD活動を通してレベルアップに努めていますが、学園職員についても2009年度の学園専任職員のSD活動の一環として、次のような具体的取組を行いました。

- ① 新入職員を対象にしたマナーセミナー
- ② 全職員を対象にした
  - ・大学アドミニストレーション専攻（通信教育課程）、並びにオープンカレッジ・孔子学院の講座受講による学内研修の実施、
- ③ 入職後2年～3年以内職員対象の研修
  - ・私立大学庶務課長会主催の職員基礎研究会への参加
  - ・キリスト教学校同盟主催の夏期学校への参加
  - ・大学アドミニストレーション専攻（通学過程）受講
- ④ 大学基準協会、日本高等教育評価機構、日本学術振興会、日本私立学校振興・共済事業団などの外部機関への出向・派遣

## (3) 募金活動事業の遂行

- ① 21世紀桜美林学園教育環境充実プログラムの推進資金を寄付募集するため、2006年以降進めてきました「創立60周年寄付金募集活動」を2009年度末に終了致しました。この間毎年度継続してまいりました「学園債」の発行活動とあわせて約8億円の資金を調達致しました。既にこの資金の内2億円は、学園のシンボルである「荊冠堂」の建設資金に充当しています。また、2008年度から復活致しました学園の施設設備の充実、教育環境の充実のための維持寄付金の募金活動も継続して実施しました。「中期目標」にも掲げるとおり、今後とも卒業生への積極的なアプローチを行うなど継続的に募金活動を展開して行きます。
- ⑤ 2009年度までの各種寄付金の募金状況、「学園債」の発行状況はそれぞれ以下の通りとなっています。

【寄付金の状況(60周年寄付事業)】

(単位:千円)

摘要		～2008年度末	2009年度	合計
個人	在校生	1,910	20	1,930
	卒業生	19,971	4,395	24,366
	保護者	24,633	2,140	26,773
	役・教職員	45,310	4,880	50,190
	一般他	24,744	1,310	26,054
	小計	116,568	12,745	129,313
法人・団体		204,556	18,434	222,990
合計		321,124	31,179	352,303

- ・ 摘要については、教職員を除き寄付者ご本人の申告により分類し記載しています。尚、申告が無いものなど不明な分は一般他に含めています。
- ・ 法人・団体には受配者指定寄付金を含みます。

【寄付金の状況(維持寄付金)】

(単位:千円)

摘要		2009年度	2008年度	合計
設置校	大学	4,860	5,142	10,002
	高校	3,170	5,405	8,575
	中学	2,570	5,520	8,090
	幼稚園	160	350	510
	その他	0	0	0
合計		10,760	16,417	27,177

【学園債の発行状況】

(単位:千円)

2009年度発行	3年債		4年債		合計	
	発行件数	発行金額	発行件数	発行金額	発行件数	発行金額
第1回(6月末発行)	2	2,000	0	0	2	2,000
第2回(9月末発行)	20	31,500	7	5,700	27	37,200
第3回(12月末発行)	21	18,800	8	24,100	29	42,900
第4回(2月末発行)	20	33,400	9	19,800	29	53,200
合計	63	85,700	24	49,600	87	135,300
<b>既発行分</b>						
2006-2008年度発行					301	302,000
<b>発行額総計</b>					<b>388</b>	<b>437,300</b>

※:2006年度は7年債を発行しました。2007年引受分後日辞退100千円は削除済み。

(3) 「格付け」のレビュー

学園経営における財務的な面での健全性を第三者の評価機関の指標により客観的に把握するとともに今後の学園運営上の一つの重要な指標として行くことを目的に、2006年に(株)格付投資情報センター(R&I)の発行体格付け「A- (シングルAマイナス)」(方向性「安定的」)との格付け結果を取得し公表しました。また、2008年度は、格付投資情報センター(R&I)に加えて(株)日本格付研究所(JCR)の長期優先債務新規格付け「A (シングルAフラット)「安定的」」を取得しました。2009年度は両社の格付けレビューを行い、それぞれの格

付けを維持しました。

## 2. 大学（大学院、別科を含む）の事業

2009年度の大学における事業は以下の通りです。

### (1) 学士課程における教育事業、および新たな取組

#### ① 学群と学部について

学群制へ全学が移行してから、3年が経過しました。学群と学部それぞれに所属する学生にとってよりよい教育環境と教育システムの提供に努めました。完成年度を迎えた健康福祉学群、ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類では、急激な雇用環境の悪化の中、約90%の内定率を確保し、新たな学びの成果を発揮することができました。

#### ② フライト・オペレーションコース

2008年4月に開設したビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学類のうち、フライト・オペレーションコースについては全寮制を原則としていますが、専用の学生寮として「<sup>そったくりょう</sup>啐啄寮」が2009年7月に完成しました。また、2009年度秋学期には第1期生が米国アリゾナ州立大学での飛行訓練を開始し、全員がソロフライトを終えました。先発の13名は自家用操縦士免許を取得し、次の訓練に進んでいます。後発の4名も最初の関門である自家用操縦士免許の取得を目指しています。

#### ③ 保育コース

健康福祉学群保育コースでは従来の「保育士資格」に加え、2009年度より新たに「幼稚園教諭1種免許状」の取得が可能となりました。学生への教育を確実に実施し、多くの資格取得者を輩出できるよう努めます。

#### ④ FD、認証評価

学士課程におけるFDの義務化に対応するため、2008年5月に大学教育開発センターを立ち上げ、2009年度も引き続きFDのみならず、SDも含めたシンポジウムの企画運営等を実施しました。

さらに、高等教育研究所の事業のうち、自己点検評価、認証評価に関するものを移管し、将来予定されている大学基準協会による認証評価に対応するため、大学情報評価分析を行い、2008年度に引き続き2009年度版「桜美林大学データブック」の作成などを実施しました。

#### ⑤ 教員免許状更新講習

2009 年度から義務化された教員免許状更新講習に対応するため、2008 年に教員免許状更新講習センターを立ち上げました。2009 年度から本格稼働となりましたが、政権交代による政策変更の影響などもあり初年度の受講申込みは予想を大幅に下回る結果となりました。今後の政策の動向を注視していきます。

⑥ GP プロジェクト

学内の教育の質向上に係わる具体的な取組みを精査し案件を絞り込んだ上で学内の協力体制を整え「層の厚い学士力醸成のための自修システム」案件として申請した結果、大学教育・学生支援推進事業（テーマ A）大学教育推進プログラムに採択されました。

⑦ コースナンバリングシステム

大学院も含め、授業を特定の記号で表記するコースナンバーを導入し、各科目のカリキュラム上の位置づけや、種類を明確にし、科目管理やカリキュラム管理、履修登録等に利用できるよう、検討を進めました。

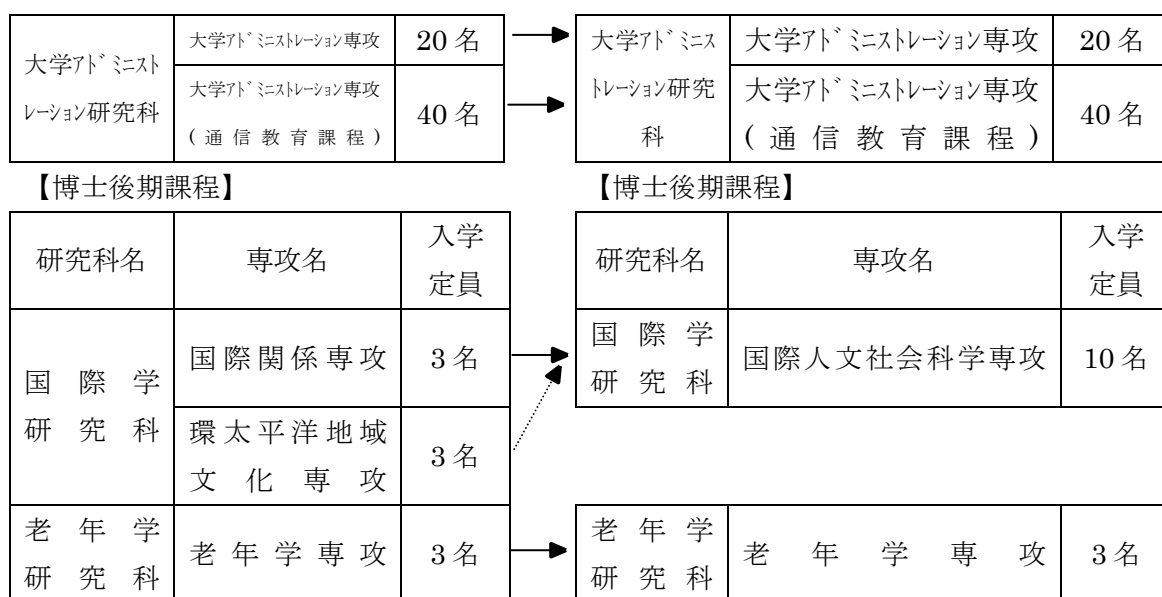
⑧ 東京都 ECO-TOP プログラム

リベラルアーツ学群環境学専攻プログラムが、東京都の ECO-TOP プログラムに認定されました。自然科学系以外の学部としては初めてであり、東京都からも高い評価を得ています。

(2) 博士前期・修士、博士課程後期における教育事業、および取組

① 2009 年度より、大学院を下図のとおり改組しました。

《2008 年度》			《2009 年度》		
【博士前期・修士課程】			【博士前期・修士課程】		
研究科名	専攻名	入学定員	研究科名	専攻名	入学定員
国際学 研究科	国際学専攻	50名	国際学 研究科	国際学専攻	10名
				国際協力専攻	10名
	経営学 研究科	経営学専攻	30名		
国際学 研究科	言語教育専攻	40名	言語教育 研究科	日本語教育専攻	30名
				英語教育専攻	10名
国際学 研究科	人間科学専攻	30名	心理学 研究科	臨床心理学専攻	13名
				健康心理学専攻	17名
老年学 研究科	老年学専攻	20名	老年学 研究科	老年学専攻	20名



これらの改組により、より専門的な教育研究を行っていくとともに、国際人文社会科学専攻の開設により、老年学研究科以外の5研究科からの学生を受入れる体制が整い、博士後期課程において学際的な融合が図られました。

## ② 教育研究の高度化

上記の改組に伴い、より学生に魅力あるカリキュラムの編成と指導体制の改善を進めました。 Semester制を徹底し、秋学期入学者の受入れ体制を整備しました。また、課程制大学院の実質化のため、既存の研究指導以外に新たなコースワークを実施しました。論文指導の面では、提出論文の水準向上について審査方法や審査体制の充実、公表方法の改善などを行いました。

## (3) 学生数の状況

2009年5月1日時点の大学における学生数の状況は、7頁の法人の概要、4. 学生数の状況に掲げる表に記載の通りです。

## (4) 学生募集、広報活動の状況

少子化・全入時代の流れの中で、志願者の獲得を図るため、オープンキャンパス、ミニオープンキャンパス、学群説明会を積極的に開催しました。また、主として関東圏の高校教員の方々を対象とした入試説明会、地方入試説明会、大学院説明会等を前年に引き続き開催し、進学相談会（地方を含む）や高校での入試相談会にも積極的に参加しました。この結果、志願者数は、9,369名と、18歳人口が減少する中で前年度比2%の増加となりました。一方、大学院の4月入学の志願者は212名となりました。これによって、所定



の入学者数を予定通り確保することができました。

大学案内をはじめとした広報を見直しつつ、並行して携帯サイト新設などにより効果の高い広報戦略にも取り組みました。また高校との信頼関係を高めるために、高大連携事業や入学前教育にも取り組みました。尚、入試問題に係わるチェック体制を全面的に見直し強化することにより入試出題ミスの発生がなくなりました。2009年度に実施しました入学者選抜の結果は以下の通りです。

【学士課程】

2010年4月入学		リベラル アーツ学群	ビジネスマネ ジメント学群	健康福祉学 群	総合文化学 群	合計
AO入学者選抜	募集定員	342	140	72	116	670
	志願者数	797	424	351	306	1,878
	入学者数	378	190	106	116	790
推薦入学者選抜	募集定員	266	100	56	50	472
	志願者数	403	162	132	79	776
	入学者数	373	142	76	65	656
一般入学者選抜	募集定員	247	98	52	59	456
	志願者数	2,206	894	580	318	3,998
	入学者数	234	69	25	67	395
センター利用入学者選抜	募集定員	95	62	20	25	202
	志願者数	1,409	676	370	147	2,602
	入学者数	131	71	30	16	248
社会人入学者選抜	募集定員	若干名				
	志願者数	4	2	1	1	8
	入学者数	3	2	1	0	6
留学生入学者選抜	募集定員	若干名				
	志願者数	37	55	2	13	107
	入学者数	17	24	0	8	49
合計	募集定員	950	400	200	250	1,800
	志願者数	4,856	2,213	1,436	864	9,369
	入学者数	1,136	498	238	272	2,144

※編入学者選抜については記載していません。

※留学生および社会人選抜の募集定員については一般入学者選抜に含まれます。

2009年9月入学		リベラル アーツ学群	ビジネスマネ ジメント学群	健康福祉学 群	総合文化学 群	合計
AO、社会人、留 学生、留学生別 科推薦、海外提 携校推薦留学生	募集定員	若干名				
	志願者数	6	13	2	1	22
	入学者数	5	10	2	0	17

【博士前期課程・修士課程】

		国際学研究科	経営学研究科	言語教育研究科	心理学研究科	大学アドミニストレーション研究科(通学過程)	同左(通信教育課程)	老年学研究科	合計
2009年度9月入学 (2009年7月入試)	募集定員	若干名							
	志願者数	6	15	9	6	0	8	1	45
	入学者数	3	12	5	3	0	7	1	31

		国際学研究科	経営学研究科	言語教育研究科	心理学研究科	大学アドミニストレーション研究科(通学過程)	同左(通信教育課程)	老年学研究科	合計
2010年度4月入学 (2009年9月・12月)	募集定員	20	30	40	30	20	40	20	200
	志願者数	9	28	39	58	11	36	17	198
	入学者数	7	18	20	23	9	34	15	126

【博士後期課程】

		国際学研究科	老年学専攻	合計
2009年度9月入学 (2009年7月入試)	募集定員	若干名		
	志願者数	5	1	6
	入学者数	4	1	5

		国際学研究科	老年学研究科	合計
2010年度4月入学 (2010年2月入試)	募集定員	10	3	13
	志願者数	10	4	14
	入学者数	5	3	8

(5) 卒業者の状況、就職の状況

① 2009年度の、学位授与者の状況は次の通りです。

【大学院学位授与者】

	授与数
博士後期課程(※1)	5
博士前期・修士課程(※2)	154
合計	159

※1: 研究生1名を含みます。

※2: 通信課程修了者を含みます。

【学士課程学位授与者】

学部	授与数	内、早期卒業者
文学部	425	31
経済学部	225	4
国際学部	236	15
経営政策学部	39	1
総合文化学群	184	11
ビジネスマネジメント学群	381	25
健康福祉学群	206	10
リベラルアーツ学群	4	4
合計	1,700	101

② 2009年度の就職支援活動は、キャリア開発センターの活動を通じて行いました。

ア. 2010年3月時点で、本学が把握している学士課程4年生の進路決定者の状況は、

- ・ 就職希望者 1,281 名の内、内定取得者は、1,034 名。  
(内定率：80.74%)
- ・ 進学希望者、120 名
- ・ 留年・早期卒業等を含むその他 500 名余り

となっています。

イ. 2009 年度就職内定率は 80.7%でした。厳しい経済環境の中で就職内定率向上のためにキャリアアドバイザーの機能を強化して学生支援を緻密に行いました。また、キャリア開発センターの活用を促すために、CADAC 通信を 10 回発行しました。年間を通じて各種説明会、ガイダンス、業界セミナー、対策セミナー、SPI セミナー、各種イベント、学内企業面談会、インターンシップ促進、民間企業試験対策、公務員試験対策、内定者報告会、などを開催し、学生の就職活動を鼓舞・支援しました。とりわけ 2009 年度は” キャリアフェスタ WEEK “を新しく開催して、社会で活躍する先輩オビリンナーと話す 6 月に 4 回設け、これにより仕事を考える上での情報と刺激を与えることに成功しました。

一方、学生の就職活動を支えるために、ノウハウを集約した『就職支援ガイドブック』（キャリア・ハンドブック 2010）を編纂しました。

2009 年度に本学が申請した「学生と企業の橋渡しプロジェクト—アドバイザー制度の充実」が大学教育・学生支援推進事業（テーマ B）学生支援推進プログラムに採択され、アドバイザー機能の強化、本学学生の採用に係わる実態の把握強化のための施策（本学学生採用企業の人材ニーズの調査、既卒者の実態調査など）を実施しています。

## （6）教員の体制、研究活動等の状況

### ① 教員に関する事項

ア. 2009 年度は、従来の「教員評価（結果報告）」と「研究成果（経過）報告書」を統合し、「個人別担当業務一覧（仮称）」として各教員が提出する仕組みを整備しました。

イ. 教員の履歴、業績を精密に記録・保存するデータベースの構築中で 2010 年度から、教員によるデータ登録が開始されます。

ウ. 2009 年度は、6 名の名誉教授の称号授与を行いました。

### ② 研究活動に関する事項

ア. 利益相反マネジメント委員会の設立

2009 年度末に「桜美林大学利益相反マネジメント規程」を制定しました。昨今の研究者による様々な不祥事、倫理観の欠如、それに対する社会的批判に対応する必要がありますが、本学では、既に 2008 年度中に

「桜美林大学における公的研究費の不正防止に関する規程」や「桜美林大学における研究者の行動規範」を定めてきました。本規程はこれら諸規程とも相互補完関係にあり、研究活動の質向上に繋がる制度整備を行ったものです。

#### イ. 研究倫理委員会の活動

研究者の倫理上の意識を高めるために2008年度に具体的な諸規程や制度の整備を行いました。老年学や臨床心理学の研究に係わる審査対象が多く、専門的知識が要求されるため、2009年度に大学院に小委員会（予備審査委員会）を設置し、本委員会の前に審査を行う体制を整えました。

#### ウ. 出版活動

学園の広報活動の一環として、大学を中心とした教育研究の成果を社会に発信し、学園の社会的地位の向上を図ることを目的として叢書「桜美林ブックス」を刊行して行くこととしました。具体的には、2010年5月に最初の2冊を出版することで作業を進めることができました。また、これまで検討を進めてきた「研究紀要」の大学としての統一性効率性を図った上で発行事業につき、全学研究委員会での作業が進み、2009年度は、上記趣旨を反映した各学系の「研究紀要」を7種の創刊号として発行することができました。

#### エ. 外部資金の獲得状況

2009年度の文部科学省・日本学術振興会の科研費補助金については、本学教員からの新規申請が33件であり、その内採択されたものが6件、採択率18%となりました。また、科研費以外の外部からの競争的研究資金は6百万円ありました。継続案件を含めた外部資金の獲得状況は下記の通りです。

(単位:百万円)

項目	件数	金額
補助金収入		
国庫補助金		1,079
学術研究振興資金		1
地方公共団体補助金		532
合計		1,612
科学研究費		
文部科学省	6	8
日本学術振興会	20	45
合計	26	53
受託研究費	4	6

### ③ 総合研究機構の活動

ア. 学外助成金を調達しつつ研究活動を行うチームを支援育成し、プロジェクト研究所の発足と附置研究所への発展を導く事業を推進しました。具体的には環境プロジェクト、桜美林大学＝ダナン大学パートナーシッ

プ・プログラムの2つを対象として活動しました。また、機構事務局の事業として不登校児童生徒 e-ラーニング支援事業（町田市）、ネットワーク多摩事業、首都圏西部大学単位互換協定会事業及び町田市学長懇談会事業などを昨年度に引き続き推進しました。

#### イ. 附置研究所、附置センターの活動

##### ○産業研究所

「産研通信」・「産業研究所年報」の発行を行いました。研究中のプロジェクトの一つ「八ツ場ダムと地域社会」の報告書を取り纏めました。

##### ○国際学研究所

日本ブランド・「クールジャパン」研究、日豪研究、及び国際平和協力研究等を推進しました。

##### ○高等教育研究所

研究所(センター)の紀要(桜美林高等教育研究第2号)を刊行しました。

##### ○加齢・発達研究所

高齢者ボランティア活動に関する研究、在宅高齢者の筋パワートレーニングを中心とした介護方法確立に関する研究、地域高齢者のうつ予防プログラムの開発に関する研究、高齢者の転倒予防のための効果的なプログラムの開発に関する研究などを実施しました。

##### ○言語教育研究所

「多言語・多文化時代に対応する言語教育の追究」という大きな目的のもとに、桜美林大学の言語教育に直結する研究をはじめとして、多様な言語教育研究を実行しました。

##### ○北東アジア総合研究所

月例講演会、シンポジウム等の教育事業、儒教倫理と企業倫理の相関関係、満蒙研究会等の研究プロジェクト、蒙古草原(ホロンバイル地域)社会教育調査等の調査プロジェクト、並びに、その他出版事業、東北師範大学との社会人交流プロジェクトなどを推進しました。

##### ○健康心理・福祉研究所

姿勢と健康増進プロジェクト、ソーシャルスキル活用による就学適応支援プロジェクト、障害児の母親の支援プロジェクト等、年度当初に計画したプロジェクトを実行しました。また、研究所主催・共催による講演会を開催し、各研究員の個別研究への援助を行いました。

##### ○キリスト教音楽研究所

研究所員によるリサーチの継続。本年度の研究テーマ、キリスト教音楽の歴史的基礎研究、講演会の開催、オルガン・コンサートを開催しました。また、地域住民の合唱参加によるオラトリオ楽曲に取り組み、

室内オーケストラと共にコンサートを開催しました。

○パフォーマンスアート・インスティテュート

桜美林大学パフォーマンスアート・プログラム、機関誌「a i p」の継続製作、アウトリーチ事業、市民参加作品創造事業（群読音楽劇「銀河鉄道の夜」）、ワークショップ事業（地域の子供を対象としたダンスワークショップ）、及び講演会などを開催しました。

○臨床心理センター

院生の実習のための、カウンセリングの実施とクリニカルスタッフによるスーパービジョン、地域の方に向けて公開講座などを2009年度も継続して実施しました。

(7) 図書館の事業

利用者サービスの向上を図りつつ、新入生向けガイダンスの充実や読書運動の拡大を図りました。また、スタッフの資質向上に向けて研修会への参加やOJTを図ったことでスタッフ間の連携が高まり、学生の教育支援にも貢献できました。図書館利用拡大策の一環として「三到図書館ニュース」の充実を図り、教員との連携を向上させました。昨年度開設した四谷キャンパス図書室のサービス体制を整備しました。

(8) 学生の活動支援事業

① 学生部の活動

ア. サービス・オフィスの明々館移動を受けて、国際交流センターとの緊密な連携が可能になり、新しい窓口サービスの構築と向上に取り組み、学生の満足度を従来以上に高めることができました。希望学生が多い各種奨学金の審査・選抜・支給業務には細心の注意をはらって滞りのない対応を果たしました。とりわけ留学生支援には、関係機関との連携に万全を期して取り組みました。しかし奨学金のあり方そのものの見直しが必要になったのを受けて、2011年度導入に向けた“新奨学金制度”の構築を図りました。(2009年度の各種奨学金の状況は以下の通りです。

## 【学内奨学金】

(単位：千円)

種類	対象	給付・貸与 の別	支給対象 学生数	支給総額
第1種(※)	学群・学部生	給付	31	29,902
第2種	学群・院留学生	給付	40	38,510
	協定校・学群留学生	給付	5	4,856
協定校(月々)	学群留学生	給付	2	2,394
授業料半額	大学院留学生	給付	16	4,365
学業奨励金	学群・学部生	給付	30	3,000
留学生授業料減免	大学院・学部	給付	41	6,443
シヨンコース奨学	BM学群AM学類 FOC派遣留学生	給付	15	6,375
<b>給付合計</b>			<b>124</b>	<b>83,027</b>
第3種	学部生、大学院生	貸与	3	1,606
<b>貸与合計</b>			<b>3</b>	<b>1,606</b>

※：新入生、在学学生を対象とし経済的要因のみならず成績優秀面を考慮。

## 【学外機関からの奨学金】

(単位：千円)

種類	給付・貸与 の別	支給対象 学生数	支給総額	備考
国費外国人留学生	給付	32	32,275	学部：4,大学院：28
学習奨励費	給付	111	64,266	学部：73,大学院：38
各種給付奨学金	給付	6	4,560	学部4、大学院：2
給付合計		149	101,101	
日本学生支援機構奨学金(学群・学部生)	貸与	2,748	2,219,650	
日本学生支援機構奨学金(大学院生)	貸与	43	47,836	
貸与合計		2,791	2,267,486	

※：(独)日本学生支援機構(旧日本育英会)は、日本人学生が対象。

## イ. 保健室・学生相談室の活動

保健室では、学生・教職員の健康管理を最大の目標に、健康診断の適切な実施を行い、また、感染症の発生に対しても保健所との連携によって適切な対応し、新型インフルエンザも適切な対応によって最小限の影響に留めることができました。近年、増加傾向にある保健室の利用に対応するために、高度な知識を有する専門医と提携し、体制強化を図りました。学生相談室においては、利用学生・教職員数も増加しており体制強化の検討を始めました。

## (8) 外事部の事業

主要事業である支部・ブロック保護者懇談会を開催しました。大学が行う保護者活動と後援会活動の見直しを行い、2010年度から相互の役割分担を明確にした上で協力して保護者の皆様と大学とのコミュニケーション

ョン強化の実現に向けて新たな体制を作りました。

(9) 生涯学習センター等の公開講座事業

町田キャンパス、淵野辺キャンパスにおけるオープンカレッジの開催を主要業務に、本学学生はもとより他大学生や社会人を視野に入れた各種講座を開設しました。従来からの中核講座である「語学講座」「文化教養講座」「市民講座」「産学官連携講座」に加えて、「資格取得講座」「語学教育支援プログラム」「英語検定試験」を開設しました。新宿キャンパスにおいては、「新宿アカデミー」として新たな公開講座事業を本格的に開始しました。また、UCLAエクステンション事業を開始しましたが、予想する受講者獲得には至らず事業の見直しを検討しました。

(10) 国際交流事業

① 留学生の派遣、受入

\*派遣事業として、SFSU ダブルディグリープログラム、長期留学プログラム、短期研修プログラム、GOプログラム、FO/AH コースプログラム（ビジネスマネジメント学群主催）を実施しました。

\*受入事業として、RJ/考察日本プログラム、大連外国語外国語大学一貫教育プログラム、夏期日本語セミナー（ハワイ州立大学）、OEPP（桜美林ユーロパートナーシッププロジェクト）を実施しました。

\*受入留学生に対して次の国際交流行事を行いました。

- ・芦ノ湖インターナショナルキャンプ：留学生 33 名、日本人学生 42 名参加
- ・山中湖インターナショナルキャンプ：留学生 58 名、日本人学生 79 名参加
- ・RJ/考察日本留学生歓迎会：留学生・ホストファミリー・日本人学生・教職員 150 名参加
- ・防災訓練の実施：新規継続留学生 112 名参加
- ・年末年始桜美林クラブ留学生招待：留学生 60 名、教職員 9 名参加



受入留学生数（2009年5月1日現在）

地域別：

地域	留学生数
アジア	540
アフリカ	0
オセアニア	2
北米	47
中南米	0
ヨーロッパ	8
その他	0
合計	<b>597</b>

※ 正規生、交換留学生、別科、研究生等を含む

派遣留学生数（2010年3月31日現在）

地域別：

地域	学部
アジア	167
アフリカ	1
オセアニア	50
北米	125
中南米	0
ヨーロッパ	53
※その他	7
合計	<b>403</b>

※学外CIEE国際ボランティアプログラム(10カ国30プロジェクト)

受入留学生数 学部・大学院/交換留学/別科/研究生等別

	留学者数
学部・大学院	352
交換留学	126
別科	111
聴講生・科目等 履修生・研究生	8
合計	<b>597</b>

② 教員等の派遣、受入

\*海外の大学に教員等を派遣しました。

- ・東北師範大学（中国）（1名 2009年8月23日～9月4日）
- ・ロッテルダム大学（オランダ）（1名：2009年11月8日～11月15日）
- ・ブラック大学（バングラデシュ）（1名：2010年3月13日～3月19日）

\*教員の受入状況

- ・オベリン大学からの若手教員2名を受け入れました。
- ・提携校(ハワイ州立大学)から客員教授1名を受け入れました。

③その他の活動

\*米国、台湾、韓国、欧州、中国、マレーシアで開催された独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)主催の日本留学フェアに参加しました。

\*以下のシンポジウム・イベント等を開催しました。

- ・学内留学フェア（明々館1階国際交流センター：2009年4月21日）

- ～24日／9月3日～9日：約200名来場)
- ・世界大学総長協会理事会 (The International Association of University Presidents: IAUP、アレキサンドリア、エジプト：2009年5月6日～10日：桜美林2名参加)
  - ・ACUCA 国内委員会 (国際基督教大学：2009年6月18日：桜美林3名参加)
  - ・桜美林大学・北京大学シンポジウム (北京大学：2009年9月11日～16日：桜美林7名参加)
  - ・日越・日メコン学長会議 (ハノイ：2009年9月16日～19日：桜美林2名参加)
  - ・世界大学総長協会理事会 (The International Association of University Presidents: IAUP、リオデジャネイロ、ブラジル：2009年9月15日～22日：桜美林2名参加)
  - ・特別講演会「ミラクルツインズ - The Power of Two -」(明々館4階A408教室：2009年10月23日：米国側8名、参加者150名)
  - ・ベトナム大学管理者向け研修会 (ハノイ：2009年12月1日～5日：桜美林2名参加)
  - ・ベトナム大学学長・副学長研修会 (崇貞館会議室H：2009年12月7日～8日：ベトナム側30名、桜美林側5名参加)
  - ・特別講演会「グローバル化における大学のあり方」(四谷キャンパス：2009年12月24日：講演者 李 東翔 桜美林大学客員教授、元中国駐日大使館公使参事官)
  - ・日中大学フェア&フォーラム (東京国際フォーラム：2010年1月29日～30日：桜美林4名参加)
  - ・第7回日中高等教育交流討論会 (ウエルサンピア多摩：2010年3月20日～23日：桜美林側12名、中国側7名参加)

(11) 日本言語文化学院 (留学生別科) の事業

① 学生募集・受入関係

- ・入管申請の安定 (申請書類審査の効率化) によって、定員の安定化が実現しました。勉学力・日本語力・学歴などを重視した選考を行いました。書類審査の強化、電話面接の実施などにより効率化を図りました。
- ・留学フェア、現地募集活動、広報の充実を行いました。マレーシアでは留学フェア参加を新たに実施しました。

- ・ 大連外国語大学との大学院進学を目的とする一貫教育プログラムが実施され、1期生が終了しました。
- ・ 来日後の住居は、民間アパート、寮などの活用によって徐々に安定してきました。

## ② 教育関係

- ・ 学生増のため 2009 年春学期の7クラスから秋学期に7レベル9クラスに増設しました。
- ・ より効果的な学習指導に向けて、クラス担当の教員の1名をクラスリーダーとし、専任教員と連携しながら授業の進捗度の調整や教員間の連絡、学生指導を担当する体制作りをし、学生に対してきめ細かい対応が可能になりました。
- ・ 日本語スピーチコンテストを昨年度に引き続き開催し、25名の参加があり、内容的にもより充実したものになりました。

## ③ 学生管理

- ・ 来日前の事前連絡をさらに密にし、来日後入国時の出迎え、役所手続などのサービスを向上しました。
- ・ 入学の時期によってスタッフの担当を分け、よりきめ細かい生活指導ができるように努めました。

## ④ 進学関係

- ・ 学生の希望進学先に合わせて説明会を実施しました。
- ・ チュートリアル授業の時間を活用した個別相談、面接練習・志望理由書・研究計画書作成指導等の個別指導を行い、きめ細かい指導を行いました。
- ・ 2009 年度募集と進学状況は次の通りです。

	募集人員	出願者	合格者	入学者	進学者
春学期	60	64	54	52	33
秋学期	60	157	113	118※	70
合計	120	221	167	170	103

※大連外国語大学プログラム9名を含む

## (12) 孔子学院の事業

### ① 概要

4年目を迎えた2009年度は、本格的な中国語教育機関としての実績作り、中国語学習人口の拡大、日中青少年友好交流の促進、日中文化の相互

理解のために、既存事業を推進すると同時に新規事業も企画し実施しました。

## ② 教育・研究事業

### ア. 中国語特別課程

- ・2009年度入学生は15名、クラス数2（初心者クラス、既習者クラス）。中国からの派遣教員が3名に増員されました。月例テストの実施と結果分析、定期的な教務会議の開催を通して、強化教育と管理教育の徹底化を図りました。
- ・2009年度の修了者は14名、退学者が1名。修了者の進路は、桜美林大学進学（リベラルアーツ学群）4名、同済大学7名、その他進学1名、その他（定年退職者等）2名。進学希望者の進学実績、就職希望者の就職実績はともに100%となりました。
- ・2010年度に向けた学生募集活動については、関東地区にある中国語教育に取り組んでいる高校への訪問を増やし（首都圏外の高校訪問含む）、中国語の学習意欲が強くかつ質のよい学生の確保に力を入れました。また、オープンキャンパスの実施を大学と合同で開催するほか、孔子学院単独のオープンキャンパスも回数を増やして実施しました。この結果、受験者数24名（前年度より6名増加）、入学者18名（前年度より3名増加）となりました。

### イ. 中国語・中国文化公開講座

- ・2009年度は春25講座（1講座15回授業）、秋29講座（1講座20回授業）を実施しました。受講者数は春が214名、秋が225名。春と秋がともに200名を超えたのは学院設立して初めてのことでした。また、学期と学期の間にも継続学習ができるようにさまざまなプログラムを企画しました。具体的には、春期1日集中講座（3講座）を実施し、20名が受講し、中国語会話サロン（新規）は延べ40名の方が利用しました。なお、秋講座からは、「説漢語」という直接法による講座を初級と中級、2クラスを新規開講し、好評を得ています。
- ・高島学堂では春5講座（1講座15回授業）、秋5講座（1講座15回授業）を開講しました。申込者数は春が28名、秋が28名となりました。
- ・新宿キャンパスで行われた「桜美林大学アカデミー」にも講座を提供しました。春は2講座開講、受講生10名、秋は4講座開講、受講生24名となりました。

### ウ. 企業向け中国語研修プログラム

- ・2009年度は、昨年度から継続実施している東レエンタープライズ(株)に加えて、(株)コングレと共同で1期開講し、その後、通常の企業研修プログラムとして同社に研修を提供しました。受講生は合計48名。

- ・新たに電機資材(株)向け研修を 2010 年度から実施することになりました。
- エ. 中国語教員研修プログラム
- ・中国語教育（中国語教員養成）特別課程に代わり、2010 年度から孔子学院本部派遣の中国語教員（もしくは中国語教育専門の大学院生）12 名を受け入れ、日本語研修プログラム(日本語の授業を中心とし、中国語教育の専門科目も履修する)を実施することとし準備作業を行いました。
  - ・4 月に中国同済大学教員を対象とした教員研修を実施し、計 30 名の現任教員、大学院生が参加しました。7 月には日本の大学・高校の中国語教員、これから中国語教育に携わる方を対象とした教員研修を実施し 49 名の参加者を得ました。同じく 7 月に中国留学生援護会の中国留学生教員を対象とした教員研修を実施し、20 名の参加者を得ました。
- オ. 他に、全日本青少年中国語カラオケ大会・スピーチコンテストなどの文化推進事業を推進しました。さらに、地域支援活動として、相模原日中交流協会や海老名日中友好協会の事業への協力を含め、講演や文化イベントなどによる支援を行いました。

### 3. 中学校・高等学校の事業

2009 年度における中学校、高等学校の事業は次の通りです。

#### (1) 宗教教育の充実

##### ① 学年礼拝

毎週チャペルで行なう中学の学年礼拝では沈黙入場の指導を徹底しました。讃美歌練習、礼拝ノートの記入などを通して礼拝を守る心構えと姿勢が整ってきています。特別礼拝として収穫感謝、クリスマス、卒業感謝礼拝を行いました。

##### ② 祈りの会・キリスト教教育研修会

祈りの会を 4 回、生徒 10 数名と教員が参加して行いました。また、教員対象のキリスト教教育研修会を 3 回行い、毎回 10 名前後の教員とともに研修のときを持ちました。新しい試みとして生徒教員が聖書を学び、祈る機会を設けました。

#### (2) 教科教育の充実

##### ① 授業点検と評価への取り組み

2008 年度より行なっています生徒による授業評価をアンケート形式で行ない、研修会を開きました。評価結果の提示の仕方、個々評価の捉え方に戸惑いがありましたが、前向きに評価を捉え授業に工夫を凝らすよい機会になりました。今後は教科会で評価結果を踏まえ、自主的に授

業改善に取り組み、教科全体として授業力を高めることを最優先して行きます。

② 総合学習

中学校では、宿泊行事などの見直しと工夫により教科を超えた総合学習の成果が実りつつあり、今後は担当者の育成とともに、総合学習の目標を明確にし、労作教育、技術教育の一環として菜園を開墾し収穫する喜びを味わうことにより、いのちを尊重する心を育てていきます。

③ 日々の学習

常に、教員自らが率先して、専門の教科に対する自己研鑽を持続することを求めています。中学では欠点補習とともにハイクラスの補習など補習授業の充実に取り組み成果をあげました。また日々の充実した学習活動の展開のためにシラバスを点検し、生徒の学習活動の支援に努め、シラバスを見直し、「当たり前のことを、当たり前に行うことができる教育」をめざして、日々の学習に取り組みます。

(3) 情報化の推進

① 図書館の蔵書管理システム

新しく図書館に蔵書管理システムを導入することにより、これまで出来なかった蔵書点検を行い、蔵書管理を充実させました。これにより、図書館内の蔵書の内容等の明確化と今後の図書館利用の計画立案作業が容易になりました。

② 情報の公開

英語教育等旧来のホームページを変更し、現状に適した内容に変更しました。また、最新の情報を提供するために画像を多く配信しました。しかし、情報を公開するための収集システムが不完全なために最新の情報を公開出来なかったため、今後は情報収集システムを構築し、公開可能な情報はできるだけ速く公開できるように努めていきます。

(4) 緊急時対策

① 新型インフルエンザ対策

新型インフルエンザが全国的に流行しその対策として、校長を中心としたインフルエンザ対策委員会を設置して罹患者の把握に努めました。さらに学校医と連携をはかり、必要な対策を講じリスク分散を図った結果、中3の研修旅行など主要な行事を実施することができました。

② 携帯電話による緊急連絡網サービスの導入

緊急時の連絡に備え、携帯電話を利用した緊急連絡網サービスを導入し、インフルエンザの発生状況を常に伝えることや学級・学年閉鎖の連絡の円滑化を図りました。HP 情報ともリンクさせ、欠席者にも的確で正確な情報を流すことが出来ました。

③ 災害時の対策の確認

予想される大地震のための対策情報を見直し、災害時の帰宅方法の確認について家庭への連絡を行いました。避難訓練を実施し災害に備える心構えを確認し、非常食の補充を行ないました。

(5) 施設設備

① 老朽化した大志館の対策

耐震化の必要な老朽化した大志館の取り壊し、改築を推進するため建築の優先順位をあらためて決めることとしました。生徒の安全確保を念頭に大志館校舎の耐震化等、高校校舎の改修や教育環境の改善を推進して行きます。

(6) その他の事業

① 進路指導

高校3年生対象に大学キャンパスツアーを実施、卒業生による個別ブース形式の進路相談会、模擬試験結果に対する分析と指導を行いました。また、高校1,2年生に対しても進路ガイダンスを実施し、進路について自ら考える機会を提供しました。中学生には保護者の協力を得てキャリアガイダンスを行い、将来の夢について考える時を持ちました。

② 生徒指導

毎日教員がスクールバス降車場、校門前に出て挨拶運動を行いました。携帯安全教室、薬物乱用防止教室を外部の講師を呼んで実施しました。深刻化している薬物に関する啓発活動として重要であり効果がありました。携帯電話メールを利用した掲示板等の利用の仕方にはさまざまな問題があり、使用状況を検索し削除依頼等が出来るシステムを次年度から導入します。

③ 入試広報

今年度も多くの塾、学校を訪問し、桜美林をより知ってもらうための広報活動を全教職員の協力のもとに展開しました。本校の説明会だけでなく、PFC を会場にナイト説明会を開催し、また学外の数多くの説明会に参加しました。中学入試は 2009 年度入試同様多くの受験生

を集めることが出来ましたが、経済不況、高校無償化問題等により高校志願者獲得に課題を残しました。次年度に向けて、成績基準など受験要件を改めて検討し改善を図ります。

【中学・高校入学募集の状況】

項目		高校	中学校
募集定員		320	160
一般入学者選抜	志願者	368	2,158
	合格者	317	491
	入学者	70	154
推薦入学者選抜	志願者	40	
	合格者	40	
	入学者	40	
小計	志願者	408	2,158
	合格者	357	491
	入学者	110	154
桜美林中学からの選抜	志願者	165	
	合格者	165	
	入学者	165	
合計	募集人員	320	160
	志願者	573	2,158
	合格者	522	491
	入学者	275	154

※1:本表は、2010年度入試(2009年度実施)の結果です。

【卒業生の進路状況】

◇高校

主な進学先と人数(2009年度卒業生)								
私立大学	桜美林	43	法政	16	日本	16	明治学院	15
	青山学院	13	中央	12	明治	11	神奈川	11
	駒沢	10	早稲田	9	専修	8	東海	7
	東洋英和	7	立教	6	帝京	6	東京理科	5
	國學院	5	慶應義塾	4	東京電機	4	東京都市	4
	他、81名		小計	293名				
	国・公立大学	北海道 東京学芸		東京 横浜国立		東京海洋 横浜市立		東京農工
			小計	8名				
短期大学				8名				
専門学校				8名				
その他				37名				
<b>卒業生合計</b>				<b>354名</b>				

◇ 中学	卒業生計	桜高進学	他校進学	海外(転住)
男	75	72	1	2
女	100	93	5	2
計	175	165	6	4



【奨学金受給者の状況】

(単位：千円)

種類 (学内奨学金)	給付・貸与 の別	支給対象 学生数	支給総額
【高等学校】			
奨学金規程	給付	4	2,298
育英金支給	給付	3	1,347
留学生奨学金	給付	2	675
高校合計		9	4,320
【中学校】			
奨学金規程	給付	2	894
育英金支給	給付	2	894
中学合計		4	1,788

\* 上記学内奨学金の他、高校生を対象とした次の学外奨学金の受給を受けています。

- ・私立学校等授業料軽減助成金 給付 65名 6,970千円
- ・神奈川県高等学校奨学金 貸与 16名 7,680千円
- ・東京都育英資金 貸与 5名 1,800千円

#### 4. 幼稚園の事業

##### (1) 園児数

- ・入園児数：56名 (男児27名 女児29名) 2009年4月8日入園
- ・在園児数：156名 (男児77名 女児79名) 2009年5月1日現在
  - 年長組：56名 (男児26名 女児30名)
  - 年中組：59名 (男児33名 女児26名)
  - 年少組：41名 (男児18名 女児23名)
- ・卒園児数：56名 (男児26名 女児30名) 2010年3月18日卒園

##### (2) 進学先

24小学校〔公立：20校(51名) 私立：4校(5名)〕 ( )内は進学人数

○東京都 11校(34名)

①忠生第一2名 ②忠生第三2名 ③函師3名 ④小山中央1名 ⑤小山田5名 ⑥小山5名 ⑦小山田南10名 ⑧七国山2名 等

○神奈川県 9校(17名)

①鹿島台1名 ②大野北5名 ③淵野辺2名 ④大野1名 等

○(私立)4校(5名) ①相模女子大学小学部2名 ②桐光学園1名 ③聖セシリア1名 ④森村学園初等部1名

##### (3) 年間教育日数と一日の教育時間

- ・教育日数：205日 教育週数：44週

一学期：4月7日～7月25日、二学期：9月1日～12月18日

三学期：1月8日～3月19日

(夏期保育 7/23・8/25～8/27 計4日間)

・一日の教育時間

全日：月曜日、火曜日、木曜日、金曜日 半日：水曜日

全日：1班：8:30～13:50 2班：9:30～14:50

半日：1班：8:30～11:20 2班：9:30～12:20

(4) 2009年度の年間目標

キリスト教精神を礎として教育の業を展開するにあたり、各学年に以下の通り年間目標を定めました。

年少：園児が神様に会い、神様に信頼する子どもとして育つ

年中：神様が一緒にいてくださることを喜べる子どもになる

年長：神様に感謝し、自ら隣人の為に優しさを届けることのできる子どもに育つ

(5) 次の主な年間行事を実施しました。

上記の年間目標を定めた上で、(あ)キリスト教保育 (い)バランスの取れた保育 (う)保護者との関わりを重視、という本園の教育内容の特徴を生かして、以下の2009年度の行事、事業を遂行しました。

① 4月：進級式、入園式、イースター礼拝、親子遠足

5月：保育参観、母の日礼拝、避難引取り訓練

6月：父の日合同礼拝、家庭訪問、花の日礼拝、花配り、父親の為の講演会、公開保育Ⅰ、田植え

7月：年長組一泊保育(大地沢青少年センター)、夕涼み会、プール

8月：私立幼稚園教職員研修会、夏期保育、防犯訓練、プール

9月：災害時引取り訓練、昆虫観察会、クッキー作り、バザー、公開保育

Ⅱ

10月：運動会、芋掘り、避難訓練、秋の遠足、稲刈り

11月：交通安全教室、福祉施設訪問、収穫感謝礼拝、野菜配り、親子ふれあいの会、入園準備会

12月：クリスマス礼拝・聖誕劇

1月：餅つき、絵本読み聞かせの会、個人面談、入園準備会、創立者召天記念礼拝

2月：どうぶつ村、豆まき、入園準備会、母親の為の講習会

3月：生活発表会、顕微鏡観察会、お別れ遠足、卒園式、修了式、入園準備会 (毎月最後の金曜日：当月度誕生会、毎月第一水曜日もしくは土曜日：父母の会)

② 新型インフルエンザ対応

幼稚園では9月10日に一人目の園児が罹患し、12月末までに合計50名の園児が罹患しました。学園保健室及び町田市と連絡を密にし、感染拡大を防ぐため、年長2クラス(はと組2日間・ひつじ組3日間)、年中1クラス(さくら組3日間)をクラス閉鎖としました。

③ 中学・高校・大学との連携の深化

桜美林大学の保育専修コースに学ぶ学生たちの実践の場として、また大学院在学の学生の食育に関する研究調査に、そしてリベラルアーツ学群の学生の少子化問題に関する研究調査に協力する等、2009年度はこれまで以上に大学・大学院と密接な協力関係を築き、在学する学生たちにとっても良き学び・研究の場を提供することができました。

また将来幼稚園教諭、保育士を目指す桜美林高校に在学する生徒4名を受入れ、実際の保育を経験してもらい、高校生の学びの場としても生かされ、学園附属の幼稚園としての存在意義が深まったといえます。

④ 花育体験教室の実施

生涯学習センターのフラワーアレンジメントの講座担当講師を招き、園児たちにも生花を使ったアレンジメント講座を開催しました。

⑤ 特別支援プログラムの実施

毎年度実施している年4回の入園準備会に加え、既に入園が内定している園児を対象に入園前に3回、入園に向けて少しでも集団生活にスムーズにとけ込めるように、特別支援プログラムを実施しました。

⑥ 自己評価・自己点検の実施

学校教育法施行規則の改正により、幼稚園においても自己評価・自己点検に努めることとされたのを受け、積極的に保育の改善、改革ができる機会と捉えて、自己評価・自己点検を実施しました。また実施にあたっては教諭たちへの園内研修を実施しました。

⑦ 預かり保育の拡充

朝8時から夕方5時までであれば自由に園児を預けられるように規程を改正し、保護者に対する支援拡大の仕組みを構築した結果、実際に利用する家庭が増加しました。

⑧ 桃井和馬氏講演会の開催

これまで世界140カ国以上もの戦渦の中、紛争地域取材し、「紛争」「地球環境」などを基軸に活動しているフォトジャーナリストの桃井和馬氏を講師に招き、我々が未来の為に、何を残し、何を大切に伝えて行かなくてはならないかを、実際の映像をとおして保護者に語っていただきました。

⑨ バスの入れ替え

所有する2台の園バスの内、1台を東京都の排ガス規制に対応した車両に入れ替えました。

## 5. 施設・設備の状況

### (1) 建物施設関連の整備事業

- ① 2009年7月に「<sup>そったくりょう</sup>啐啄寮」の建設工事が完了し竣工式を挙りました。ビジネスマネジメント学群フライト・オペレーションコースの学生が入寮しました。
- ② 留学生宿舎としての利用のためPFCⅡの建設を進めていますが、2010年9月からの利用開始を目標に工事を進めています。
- ③ 上小山田グラウンド野球場は、2009年度開発許可を受け2010年度から工事着工予定です。また、中期目標の対象期間である2010-2014年度において、新図書館、総合文化学群アトリエ棟の建設計画についての検討を進めて行くこととなります。
- ④ 以德館外壁改修、屋内野球場改築工事を完了しました。また、徳望館ゾーンへの道路管路横断工事を完了しました。
- ⑤ 大志館の照明更新は補助金に応じて半分完了しました。JOMO跡地は学園緑化計画の一環として完了しました。
- ⑥ 学園敷地内の道水路払い下げについては、行政当局と事前協議を行っているが、通過すべき関門が多く学内インフラ整備との整合性を取りながら推進しています。

### 【2009年度末の学園キャンパス概要】

	校地(m <sup>2</sup> )	校舎(延床:m <sup>2</sup> )	2010年3月31日 備考
町田キャンパス	186,310	111,940	大学・高校・中学・幼稚園 (※3)
町田キャンパス(借用)	26,146	—	大学
淵野辺キャンパス	4,354	9,052	大学
淵野辺キャンパス(※1)	3,140	—	大学
四谷キャンパス	737	2,055	大学
新宿キャンパス(※2)	—	578	大学
伊豆高原キャンパス	9,168	3,438	大学
合計	229,854	127,062	

※1: プラネット淵野辺キャンパスの近隣物件として土地を取得しましたが、建物は建築中です。

※2: 新宿キャンパスは、賃貸物件のため校地には算入していません。

※3: 大学には、大学院・留学生別科・孔子学院(中国語特別課程)を含みます。

(2) 情報システム関連事業、情報環境の整備事業

① 学園全体の事業

- ア. 情報セキュリティ対策事業として、本年度は、年間 2 回の定例委員会を開催し、システム監査基準など 24 件の対策基準を整備しました。
- イ. 教職員間の情報共有化への支援強化のための施策として、職員リテラシー向上プログラムを策定し 15 回の講習会を実施しました。複合機の年間更新計画に沿って順次入れ替えを実施しました。
- ウ. キャンパスカードの導入につき継続して検討しました。メールシステムの改善、学生教職員等の ID 管理効率化に向けた構想を策定しました。また、対外向け Web サイトの安定稼働と改善を行いました。

② 大学の事業

- ア. 学園内施設における基幹ネットワークの安定稼働と改善を図りました。
- イ. 学生等が利用する情報環境の安定稼働と改善を図りました。
- ウ. 図書館システムのバージョンアップを図りました。大学内の PC 増設、および一般教室の PC 環境の改善を行いました。
- エ. 教職員の異動・転入等に合わせて情報環境を整備しました。
- オ. GAKUEN, e-Campus 系システムの安定稼働と改善を図りました。
- カ. e ラーニングの普及推進を図りました。
- キ. 「授業評価アンケート」「学生満足度調査」等の支援を行いました。

【 教育用の情報環境概要(2010年3月末現在) 】

学生および教員が利用できるPC台数

利用者	利用目的	町田C	PFC	新宿C	四谷C	計
学生用	授業用	604	62	0		666
	自習用	287	0	0		287
	多目的用	198	11	12	54	275
教員用	授業準備用	60	3	0	8	71
	研究室用	258	5	0	0	263
	計	1,407	81	12	62	1,562

キャンパス間のネットワーク本数と帯域

区間	本数	帯域 Mbps	摘要
インターネット接続	1	100	教育系・事務系の共用
町田C-PFC間	1	100	教育系

町田C-PFC間	1	10	事務系
町田C-四谷C間	1	20	教育系(2008年3月開通)
町田C-四谷C間	1	20	事務系(2008年3月開通)
町田C-新宿C(久保ビル)間	1	100	事務系(2009年3月開通)

キャンパス内の無線アクセスポイント数

場所		台数	摘要
町田C	明々館	53	2006年3月に敷設
	太平館	14	2009年3月に更新
	栄光館	1	2001年8月に敷設
	崇貞館	12	2009年3月に更新
	学而館	21	2007年9月に敷設
	理化学館	17	2008年3月に敷設
	図書館	3	2005年3月に敷設
PFC	2	2009年3月に更新	
四谷C	20	2008年3月に敷設	

3) 図書及び視聴覚資料等

学園保有図書(和漢書・洋書)	493,987冊
〃 視聴覚資料	12,221点
〃 雑誌(製本)	52,856冊

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 当年度決算の状況

2009年度の、消費収支計算書は、次ページに掲載の通りですが、その概要は次の通りです。

##### (1) 消費収支計算の状況

- \* 2009年度の帰属収入は、13,939百万円と2008年度に比べ841百万円増加しました。これは、学群制の年次進行によって、学生数の増加による増収効果および学費を各学群の教育内容に応じて改訂した効果によるものです。一方、消費支出は、人件費の増加によって2008年度に比べ372百万円増加し13,459百万円となりました。
- \* この結果、2009年度の帰属収支差額（企業会計における当期利益にほぼ相当する概念）は、480百万円の収入超過となりました。予算において想定していた317百万円に比べ163百万円、2008年度に比べ469百万円の収入増加となりました。帰属収支差額は、2007, 2008年度と収支均衡状態が続きましたが、2009年度は約5億円の収入超過（黒字）に転じ、将来に向けた投資財源としての基本金組入れを進めてゆく基礎固めができたと考えます。これまで大学における学群による新教育体制への改編が完成する2010年度に向けて経営安定化に取り組んで来ましたが、この実現に向け一歩前進した決算結果であったと考えています。
- \* 2009年度の、基本金組入額は、荊冠堂、理化学館、四谷キャンパス建物建設などに伴う借入金<sup>そったくりょう</sup>の返済による組入、「啐啄寮」、留学生用宿舎（PFCⅡ）建設資金支払いによる組入れなどを行ったことから、1,619百万円となりました。前述の通り帰属収支差額の収入超過がありましたが、単年度では基本金組入額を下回っている結果、2009年度の当年度消費収支差額は、1,139百万円の支出超過となり、2009年度末の翌年度繰越消費支出超過額は、12,930百万円となり、2008年度末に比べ支出超過額が拡大することになりました。2009年度に策定しました中期目標では将来の安定経営のために帰属収支差額の収入超過を帰属収入金額に対し10%以上確保することを目指しています。この目標を実現することにより財政基盤の充実を図り繰越支払超過額の削減を目指したいと考えています。

【2009年度消費収支計算書】  
(消費収入の部)

科目	2009年度 決算 ①	構成率	2009年度 予算 ②	差異 ①-②	2008年度 決算 ④	差異 ①-④
学生生徒等納付金収入	11,323	81.2%	11,238	85	10,572	751
手数料収入	333	2.4%	355	△ 22	349	△ 16
寄付金収入	36	0.3%	40	△ 4	43	△ 7
補助金収入	1,619	11.6%	1,617	2	1,483	136
資産運用収入	141	1.0%	130	11	133	8
資産売却差額	2	0.0%	0	2	1	1
事業収入	256	1.8%	326	△ 70	212	44
雑収入	229	1.6%	167	62	305	△ 76
<b>帰属収入合計</b>	<b>13,939</b>	<b>100.0%</b>	<b>13,873</b>	<b>66</b>	<b>13,098</b>	<b>841</b>
基本金組入額	△ 1,619		△ 1,468	△ 151	△ 1,919	300
<b>消費収入の部合計</b>	<b>12,320</b>		<b>12,405</b>	<b>△ 85</b>	<b>11,179</b>	<b>△ 1,141</b>
<b>(消費支出の部)</b>						
科目	2009年度 決算 ①	構成率	2009年度 予算 ②	差異 ①-②	2008年度 決算 ④	差異 ①-④
<b>人件費支出</b>	<b>7,708</b>	<b>57.3%</b>	<b>7,619</b>	<b>89</b>	<b>7,313</b>	<b>395</b>
教員人件費	5,549	41.2%	5,513	36	5,305	244
職員人件費	1,802	13.4%	1,791	11	1,705	97
役員報酬	16	0.1%	17	△ 1	17	△ 1
退職金	341	2.5%	298	43	286	55
対学納金比率	68.1%		67.8%	0.3%	69.2%	-1.1%
対帰属収入比率	55.3%		54.9%	0.4%	55.8%	-0.5%
<b>教育研究経費</b>	<b>4,407</b>	<b>32.7%</b>	<b>4,537</b>	<b>△ 130</b>	<b>4,403</b>	<b>4</b>
除く、減価償却	3,142	23.3%	3,320	△ 178	3,129	13
減価償却費	1,265	9.4%	1,217	48	1,274	△ 9
対学納金比率	38.9%		40.4%	-1.5%	41.6%	-2.7%
対帰属収入比率	31.6%		32.7%	-1.1%	33.6%	-2.0%
<b>管理経費支出</b>	<b>1,149</b>	<b>8.5%</b>	<b>1,211</b>	<b>△ 62</b>	<b>1,205</b>	<b>△ 56</b>
除く、減価償却	1,054	7.8%	1,115	△ 61	1,109	△ 55
減価償却費	95	0.7%	96	△ 1	96	△ 1
対学納金比率	10.1%		10.8%	-0.6%	11.4%	-1.3%
対帰属収入比率	8.2%		8.7%	-0.5%	9.2%	-1.0%
借入金等利息支出	157	1.2%	158	△ 1	158	△ 1
資産処分差額他	33	0.2%	31	2	8	25
徴収不能額	5	0.0%	0	5	0	5
(予備費)			0	0		
<b>消費支出の部合計</b>	<b>13,459</b>	<b>100.0%</b>	<b>13,556</b>	<b>△ 97</b>	<b>13,087</b>	<b>372</b>
<b>帰属収支差額(※2)</b>	<b>480</b>		<b>317</b>	<b>163</b>	<b>11</b>	<b>469</b>
<b>帰属収支差額比率(※3)</b>	<b>3.4%</b>		<b>2.3%</b>	<b>1.2%</b>	<b>0.1%</b>	<b>3.4%</b>
<b>当年度消費収支差額(※4)</b>	<b>△ 1,139</b>		<b>△ 1,151</b>	<b>12</b>	<b>△ 1,908</b>	<b>769</b>
前年度繰越消費収支超過額(※4)	△ 11,791		△ 11,791	0	△ 9,883	△ 1,908
翌年度繰越消費収支超過額(※4)	△ 12,930		△ 12,942	12	△ 11,791	△ 1,139

学群制年次進行による学生数の増加、学費改定年次進行効果による増加

大学の学生数・教職員増加に伴う経常費補助金の増加

学群制年次進行に伴う教職員数増加に伴う増加

※1:2009年度予算欄は、予備費を各費目に充当後の補正予算の数字です。

※2:帰属収支差額=帰属収入-消費支出

※3:帰属収支差額比率=帰属収支差額÷帰属収入×100

※4:消費収支超過額(収入超過: +、支出超過: ▲)

(注)

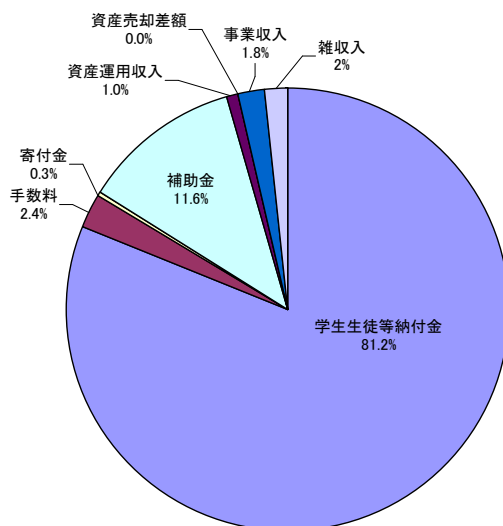
①消費収支計算書は、学校法人の1年間の事業の運営状況を示すもので、その会計処理は発生主義によっています。企業会計における損益計算書と類似する部分がありますが、「基本金組入額」を表示する点が損益計算書とは大いに異なります。

②帰属収入は、学校法人の負債とならない収入を指します。

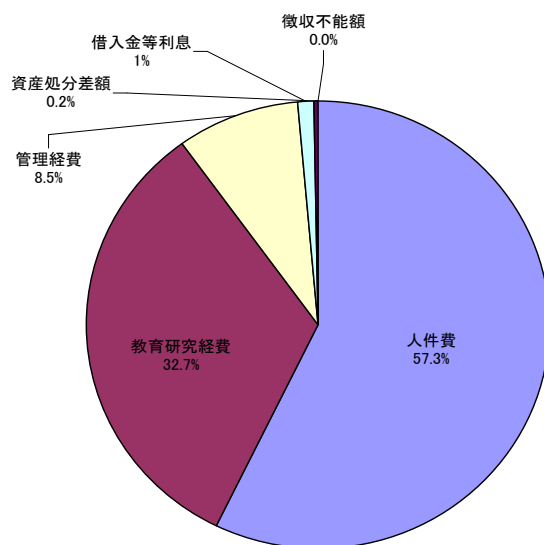


\* 2009年度の、帰属収入・消費支出の項目別の割合は次のグラフの通りです。

(帰属収入の構造)



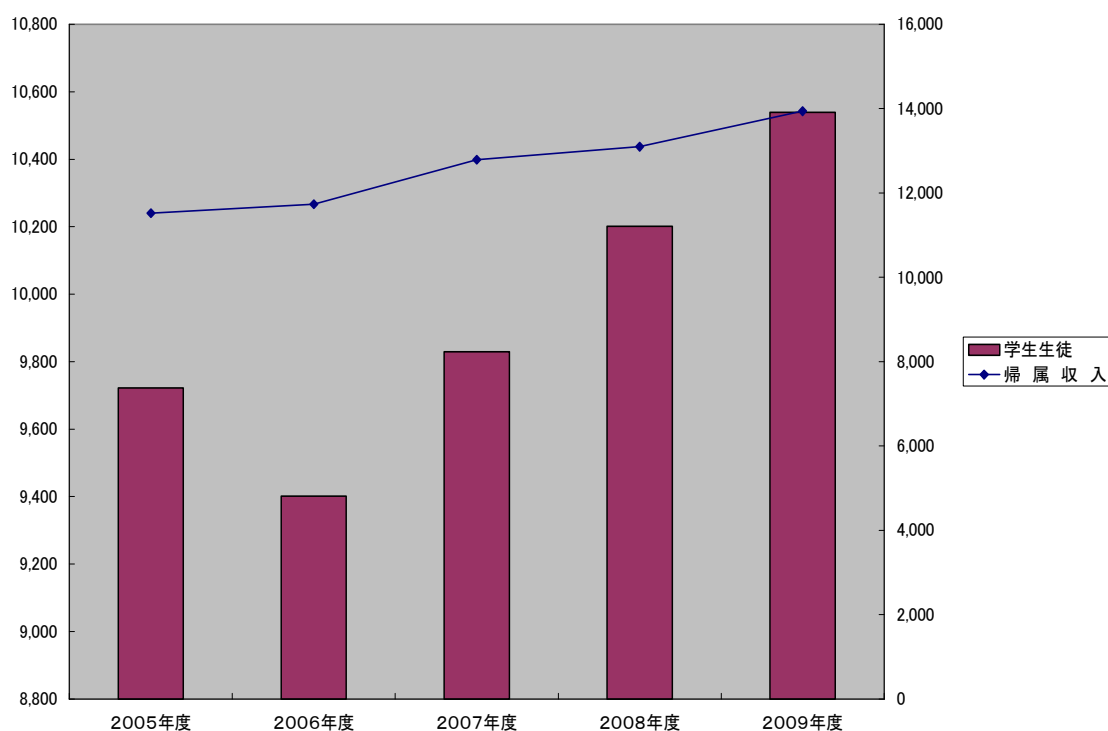
(消費支出の構造)



\* 2005年度から2009年度までの、消費収支計算の状況は、添付資料(2)の通りです。帰属収入の推移を学生数の推移と比較してグラフ化してみると次の通りです。2007年度以降は、学生数の増加、学費の見直しに伴う学納金の増加により帰属収入が増加しています。学群制の完成年度で

ある 2010 年度までこの傾向が続くことを予想しています。

【帰属収入、学生生徒数の推移】（単位：左目盛=人、右目盛=百万円）



## (2) 資金収支計算の状況

2009 年度の資金収支計算書の状況は、次の頁に記載の通りですが、その概要は以下の通りです。

- \* 2009 年度の資金収入面では、学群制年次進行による学生数の増加と学費改定効果の浸透により 2008 年度に比べ学生生徒等納付金が大きく増加しました。また、学生寮建設のための施設投資資金を確保するため借入金が増加しました。この結果、2009 年度の資金収入は、2008 年度比 2,491 百万円増加し、16,012 百万円となり、前年度繰越金を加えた資金収入合計は 19,640 百万円となりました。
- \* 一方、資金支出面では、学群制の年次進行に伴う教職員の増加による人件費が 2008 年度に比べ 381 百万円増加したことで、学生寮（フライトオペレーションコース学生、留学生を対象）建設に伴う施設関係費が 2008 年度に比べ 1,858 百万円増加したことを主な要因として、2008 年度に比べ 1,856 百万円増加し、16,253 百万円となりました。

【2009年度決算案(案) 資金収支計算書】

2010. 5. 22定例理事会資料(1)

(収入の部)

(単位: 百万円)

科目	2009年度 決算 ①	構成率	2009年度 予算 ②	差異 ①-②	2008年度 決算 ③	差異 ①-③
学生生徒等納付金収入	11,323	70.7%	11,238	85	10,572	751
手数料収入	333	2.1%	355	△ 22	349	△ 16
寄付金収入	28	0.2%	40	△ 12	34	△ 6
補助金収入	1,619	10.1%	1,617	2	1,483	136
資産運用収入	141	0.9%	130	11	133	8
資産売却収入	121	0.8%	120	1	1	120
事業収入	256	1.6%	326	△ 70	212	44
雑収入	229	1.4%	167	62	305	△ 76
借入金等収入	1,636	10.2%	2,000	△ 364	99	1,537
前受金収入	2,000	12.5%	2,000	0	2,036	△ 36
その他の収入	562	3.5%	183	379	492	70
資金収入調整勘定	△ 2,236	-14.0%	△ 2,122	△ 114	△ 2,195	△ 41
<b>当年度資金収入合計</b>	<b>16,012</b>	<b>100.0%</b>	<b>16,054</b>	<b>△ 42</b>	<b>13,521</b>	<b>2,491</b>
前年度繰越支払資金	3,628		3,628	0	4,504	△ 876
<b>収入の部合計</b>	<b>19,640</b>		<b>19,682</b>	<b>△ 42</b>	<b>18,025</b>	<b>1,615</b>

(09/08差異に係わる補足)

学群制年次進行による学生数の増加、学費改定年次進行効果による増加

PFC II 建設に伴う借入金増

(支出の部)

科目	2009年度 決算 ①	構成率	2009年度 予算 ②	差異 ①-②	2008年度 決算 ③	差異 ①-③
人件費支出	7,619	46.9%	7,549	70	7,238	381
教員人件費	5,549	34.1%	5,513	36	5,305	244
職員人件費	1,802	11.1%	1,791	11	1,705	97
其他人件費	16	0.1%	17	△ 1	17	△ 1
退職金支出	252	1.6%	228	24	211	41
教育研究経費支出	3,139	19.3%	3,320	△ 181	3,127	12
管理経費支出	1,041	6.4%	1,115	△ 74	1,108	△ 67
借入金等利息支出	157	1.0%	158	△ 1	158	△ 1
借入金等返済支出	684	4.2%	683	1	466	218
施設関係支出	2,540	15.6%	2,532	8	682	1,858
設備関係支出	237	1.5%	224	13	339	△ 102
資産運用支出	879	5.4%	370	509	387	492
その他の支出	650	4.0%	632	18	1,633	△ 983
資金支出調整勘定	△ 693	-4.3%	△ 464	△ 229	△ 741	48
<b>当年度資金支出合計</b>	<b>16,253</b>	<b>100.0%</b>	<b>16,119</b>	<b>134</b>	<b>14,397</b>	<b>1,856</b>
次年度繰越支払資金	3,387		3,563	△ 176	3,628	△ 241
<b>支出の部合計</b>	<b>19,640</b>		<b>19,682</b>	<b>△ 42</b>	<b>18,025</b>	<b>1,615</b>

学群制年次進行に伴う教職員数増加に伴う増加

PFC II 建設による増加

2008年度は、2007年度の未払金支払による支出が多かったことの反動減

<b>当年度資金収支差額</b>	<b>△ 241</b>	<b>△ 65</b>	<b>△ 176</b>	<b>△ 876</b>	<b>635</b>
同上(借入金収支を除く)	△ 1,193	△ 1,382	189	△ 509	△ 684

※1: 2009年度予算欄は、予備費を各費目に充当後の補正予算の数字です。

(注)

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容ならびに当該会計年度における支払資金(現金およびいつでも引き出すことのできる預貯金)の収入および支出のてん末を明らかにするためのものです。尚、資金収入調整勘定には当期末未収入金及び前期末前受金、資金支出調整勘定には当期末未払金及び前期末前払金を計上していません。

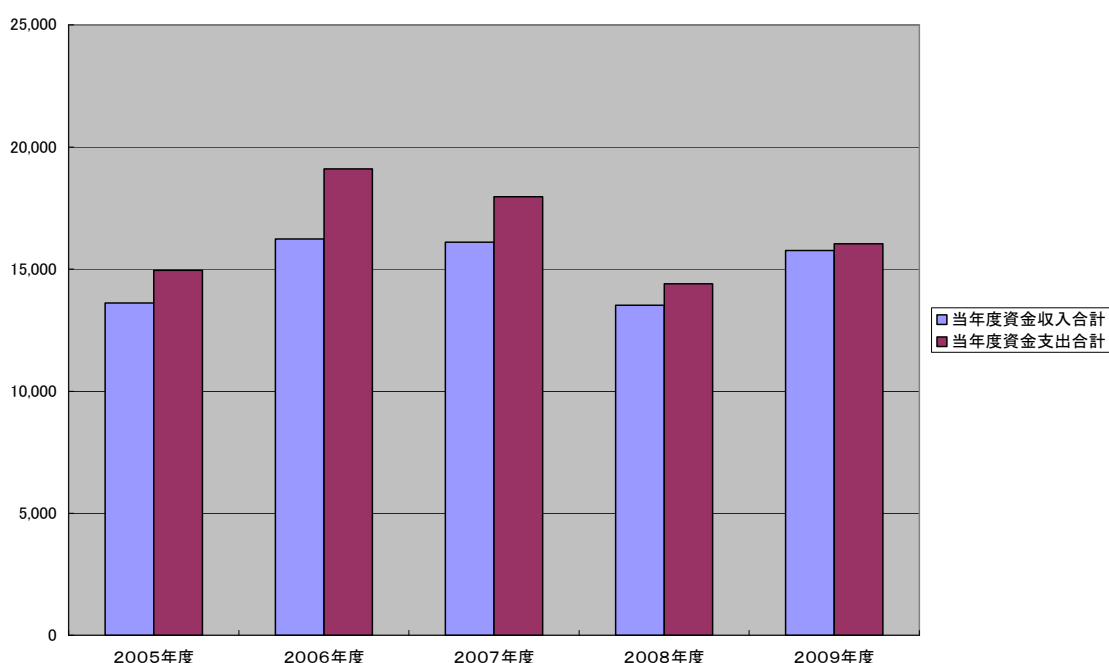
\* この結果、2009 単年度の資金収支差額は 241 百万円の資金支出超過となり、次年度繰越支払資金は 3,387 百万円になりました。予算に比べ 176 百万円繰越金額が減少していますが、2009 年度に予定していた金融機関からの借入金 1,900 百万の内 400 百万円の実行を差し控えたことによるものです。一方、学園の資金収支を、学校法人会計基準による表示方法から離れて、①教育研究活動、②施設等整備活動、（これら二つを合わせ事業活動）③財務活動という 3つの活動内容によるキャッシュフローの区分別にみても

①教育研究活動収支	:	2 7 1 百万円	収入超過
②施設等整備活動収支	:	6 1 7 百万円	支出超過
（事業活動収支）	:	( 3 4 6 百万円	支出超過)
③財務活動収支	:	1 0 5 百万円	収入超過
学園全体の活動	:	2 4 1 百万円	支出超過

となっています。

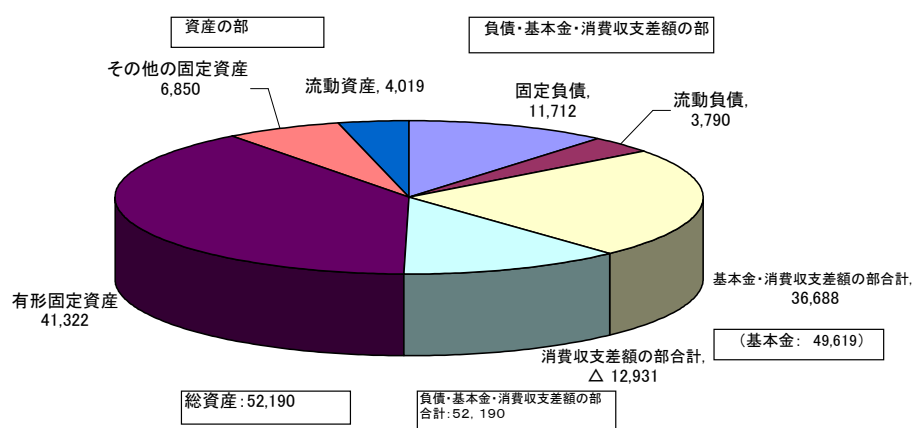
\* 2005 年度以降 2009 年度までの 5 カ年間の資金収支計算の推移は、添付資料 (3,4) の通りですが、当年度の資金収入及び資金支出の推移をグラフで見ると次の通りです。

(単位：百万円)



(3) 資産、負債・基本金・消費収支差額の状況

\* 2008年度末の貸借対照表は、次ページの通りですが、  
年度末の貸借対照表の構成をグラフで示すと次の通りです。



- \* 2009年度末の総資産額は、2008年度末に比べ、1,571百万円増加し、52,190百万円となりました。これは、学生宿舎の建設に伴う固定資産の増加を主要因とするものです。現預金は、資金収支計算の報告にも記載の通り2008年度末に比べ240百万円の減少の3,387百万円となりました。
- \* 一方、60周年記念事業としての募金活動に伴う寄付金と学園債の新規引受金額の合計で2009年度は146百万円の収入がありました。2010年3月末に60周年寄附募集期間が満了しましたのでこれまでの寄附募集金額352百万円と2006年度からの学園債発行金額437百万円を合わせた789百万円の内、既に荊冠堂建設資金として充当しました200百万円その他、募金活動のための費用21百万円、2010年度学園債償還資金65百万円、受配者指定寄付金未配布金19百万円などを除いた485百万円を、60周年中高講堂建設引当特定資産69百万円、60周年奨学基金引当特定資産250百万円、60周年記念事業引当特定資産166百万円として一般資金と区分し、それぞれの引当特定資産としました。これらの勘定を含む、その他の固定資産は245百万円増加し6,850百万円となりました。

【貸借対照表】

資産の部

(単位:百万円)

科目	2009年度末		2008年度末		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
固定資産	48,171	92.3%	46,521	91.9%	1,650	0.4%
有形固定資産	41,321	79.2%	39,916	78.9%	1,405	0.3%
土地	12,313	23.6%	12,177	24.1%	136	-0.5%
建物	22,288	42.7%	22,600	44.6%	△ 312	-1.9%
構築物	1,163	2.2%	1,191	2.4%	△ 28	-0.1%
教育研究用備品	1,310	2.5%	1,458	2.9%	△ 148	-0.4%
その他の機器備品	51	0.1%	62	0.1%	△ 11	0.0%
図書	2,271	4.4%	2,197	4.3%	74	0.0%
車両	103	0.2%	62	0.1%	41	0.1%
建設仮勘定	1,822	3.5%	169	0.3%	1,653	3.2%
その他の固定資産	6,850	13.1%	6,605	13.0%	245	0.1%
有価証券	1,402	2.7%	1,313	2.6%	89	0.1%
敷金	39	0.1%	39	0.1%	0	0.0%
長期貸付金	35	0.1%	37	0.1%	△ 2	0.0%
退職給与引当特定資産	2,921	5.6%	2,831	5.6%	90	0.0%
60周年記念事業引当特定資産	166	0.3%	419	0.8%	△ 253	-0.5%
中高講堂建設引当特定資産	1,200	2.3%	1,200	2.4%	0	-0.1%
60周年中高講堂引当特定資産	69	0.1%	0	0.0%	69	0.1%
第3号基本金引当資産	750	1.4%	750	1.5%	0	0.0%
60周年奨学基金引当資産	250	0.5%	0	0.0%	250	0.5%
その他	18	0.0%	16	0.0%	2	0.0%
流動資産	4,019	7.7%	4,098	8.1%	△ 79	-0.4%
現金預金	3,387	6.5%	3,627	7.2%	△ 240	-0.7%
未収入金	204	0.4%	181	0.4%	23	0.0%
有価証券	0	0.0%	120	0.2%	△ 120	-0.2%
前払金	174	0.3%	164	0.3%	10	0.0%
その他	254	0.5%	6	0.0%	248	0.5%
資産の部合計	52,190	100.0%	50,619	100.0%	1,571	0.0%

減価償却による減少等

留学生宿舎(PFCⅡ)施設新規建設に係わる増加

負債の部

固定負債	11,712	22.4%	10,829	21.4%	883	1.0%
長期借入金	8,418	16.1%	7,696	15.2%	722	0.9%
学校債	373	0.7%	302	0.6%	71	0.1%
長期未払金	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
退職給与引当金	2,921	5.6%	2,831	5.6%	90	0.0%
流動負債	3,790	7.3%	3,580	7.1%	210	0.2%
短期借入金	778	1.5%	683	1.3%	95	0.1%
学校債	65	0.1%	0	0.0%	65	0.1%
未払金	529	1.0%	474	0.9%	55	0.1%
前受金	2,000	3.8%	2,036	4.0%	△ 36	-0.2%
預り金	418	0.8%	387	0.8%	31	0.0%
負債の部合計	15,502	29.7%	14,409	28.5%	1,093	1.2%

PFCⅡ建設資金借入金による増加等

既建設施設に係わる借入金返済による組入れ及び、学生宿舎等に係わる2009年度建設資金支払いによる増加

基本金の部

第1号基本金	46,841	89.8%	45,223	89.3%	1,618	0.4%
第2号基本金	1,200	2.3%	1,200	2.4%	0	-0.1%
第3号基本金	750	1.4%	750	1.5%	0	0.0%
第4号基本金	828	1.6%	828	1.6%	0	0.0%
基本金の部合計	49,619	95.1%	48,001	94.8%	1,618	0.2%

消費収支差額の部

翌年度繰越消費支出超過額	12,931	24.8%	11,791	23.3%	1,140	1.5%
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	52,190	100.0%	50,619	100.0%	1,571	0.0%

減価償却累計額	13,923		12,679		1,244	
借入金比率(※1)	18.5%		17.1%		1.4%	

※1:(長短借入金+学園債)÷(資産の部合計額)

\* 負債総額は、日本私立学校振興・共済事業団等に対する 684 百万円

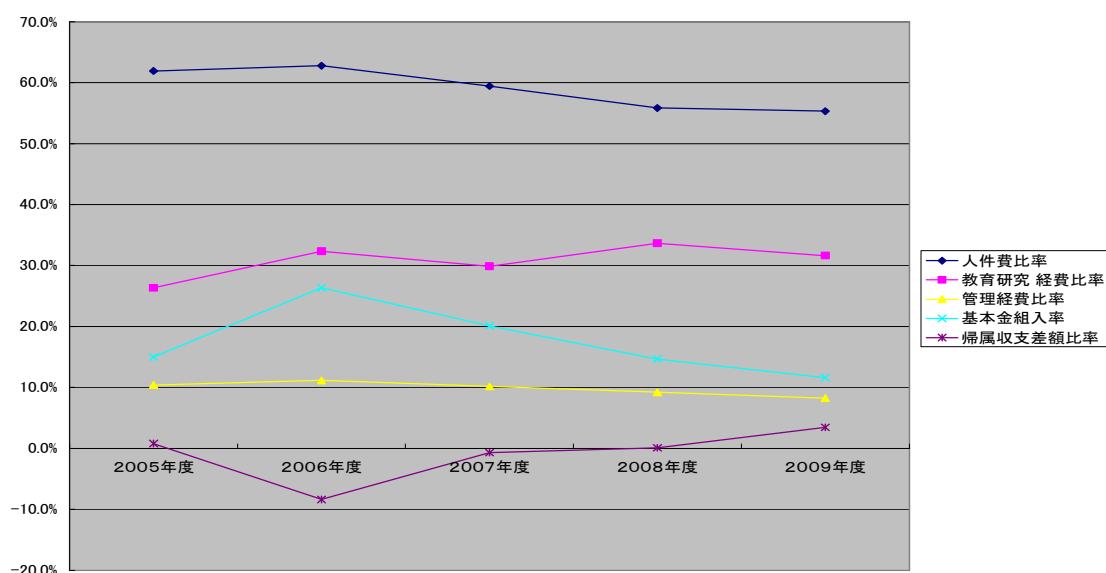
の借入金返済を行いました。前述の通り施設建設見合いの金融機関からの借入金 1,500 百万円と学園債発行による増加分 135 百万円があった結果、2008 年度に比べ 1,093 百万円増加し 15,502 百万円となりました。

\* 2005 年度末から 2009 年度末までの貸借対照表の推移は、添付資料(1-1, 1-2)の通りです。

#### (4) 財務比率の推移

\* 2005 年度から 2009 年度の 5 年間の財務比率の推移は、添付資料(5)の通りですが、消費収支に係わる財務比率、及び貸借対照表に係わる財務比率の推移をグラフで見ると次の通りです。

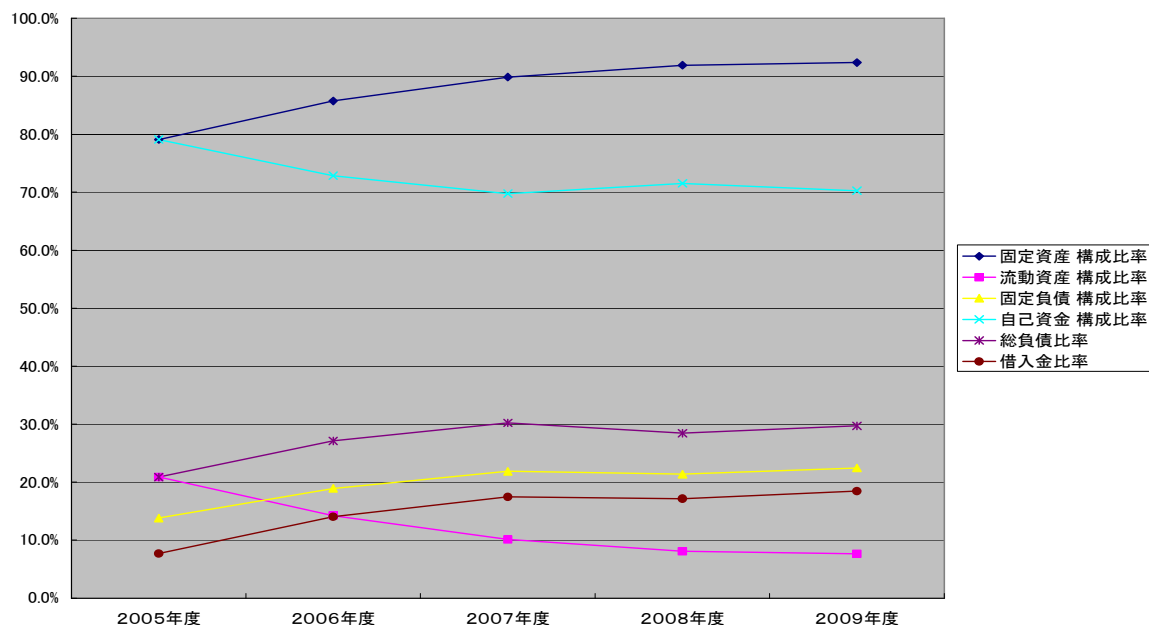
【消費収支に係わる財務比率】



\* 本学園は、2005 年度以降短期大学部の廃止や学士課程における学群による教育体制への改編作業を進めていますが、これと併せて入学定員の増加、教育内容に応じた学納金の見直しを行い、財務的に安定経営に向けて努力しています。前述の通り、2008 年度の帰属収支差額は 2 年続いた支出超過から収入超過に転じ、2009 年度は 480 百万円の収入超過と新教育体制の完成年度である 2010 年度に将来に向けた安定経営基盤への基礎固めの実現に向かって着実にその歩を進めています。しかしながら、一方で徐々に比率は低下しているもののまだまだ全国の平均水準に比して高水準である人件費比率の引下

や、効率的な事業運営による経費削減努力を続けなければならない状況であることを教職員一同認識し学校経営にあたるべく努力致します。

【貸借対照表に係わる財務比率】



2. 資金調達及び借入金の状況

2008年度の新規借入金は、留学生宿舎建設資金見合いの市中金融機関からの借入金1,500百万円、及び「学園債」の発行に伴う135百万円等、1,636百万円でした。

2009年度末の借入金残高は、短期借入金・長期借入金・学園債の合計で2008年度に比べ953百万円増加し、9,634百万円となりました。長短合わせた当年度末借入金残高の総資産に対する割合は、18.5%であり、前年度末の比率17.1%に比べ 1.4%増加しました。

3. 監査の状況

本学園の2009年度の財産の状況及び会計処理について公認会計士の監査を受けるとともに監事の監査を受けています。

以 上